



PLUMTREE FOUNDATION (WINDOWS)
インストールおよびアップグレード ガイド

Plumtree Foundation 6.0

2006 年 4 月改訂

この資料の内容はお断り無く変更する場合がありますのでご了承ください。Plumtree Software, Inc. は、このマニュアルに関連する事項（このマニュアルに記述されているソフトウェアの商品価値や特定の使用目的に対する責任などを含むがこれに限定されない）について、明示または黙示にかかわらずいかなる保証も行いません。このマニュアルにおける誤りまたはこのマニュアルの提供、有用性、利用等に関連または起因する損害について、Plumtree Software, Inc. はいかなる責任も負いません。

Copyright © 2005 Plumtree Software, Inc. All rights reserved. Plumtree、Plumtree のロゴ、Plumtree Foundation、およびその他すべてのプラムツリーの製品名およびスローガンは、Plumtree Software, Inc. または米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の製品名やスローガンは、各所有者に帰属する商標または登録商標です。

未出版：米国の著作権法の下で著作権が保護されています。著作権情報は、著作権侵害の予防手段として記載しているものであり、出版または公開を暗示するものではありません。

このソフトウェアには、プラムツリー ソフトウェアの秘密情報およびトレード シークレットが含まれています。このマニュアルの使用、公開、または複製は、プラムツリー ソフトウェアの事前の明示的な書面による許可が無い限り禁止します。

このライセンス ソフトウェアおよびマニュアルは、FAR Section 12.212 および DFARS Section 227.7202 で規定されている「commercial computer software（商用コンピュータ ソフトウェア）」、および「commercial computer software documentation（商用コンピュータ ソフトウェア マニュアル）」とみなされます。

ライセンス情報の詳細については、製品リリース パッケージのアトリビューション ファイルを参照してください。

このドキュメントに関してご意見がある場合は次のアドレスに送付してください：documentation@plumtree.com

目次

1	Plumtree Foundation へようこそ	1-1
	対象ユーザー	1-1
	記述方法	1-1
	本マニュアルで使用しているアイコンについて	1-2
	プラムツリーの資料およびリソース	1-2
2	ポータル コンポーネントの概要	2-1
	Foundation のコア コンポーネント	2-1
	認証コンポーネント	2-3
	プラムツリー サーバー コンポーネント	2-3
	プラムツリー統合製品のコンポーネント	2-3
3	インストールの準備手順	3-1
	ハードウェアの必要条件	3-2
	ソフトウェアの必要条件	3-2
	必要な管理ユーザー権限	3-3
4	ポータル コンポーネントのインストール	4-1
	プラムツリー コンポーネントのインストール	4-1
	プラムツリー管理ポータルのインストール	4-8
	プラムツリー データベースの設定	4-9
	SQL Server データベースの作成と設定	4-9
	Windows における Oracle データベースの作成と設定	4-11
	Plumtree Image Service のインストールと導入	4-21
	Plumtree Search のインストールと起動	4-23
	Windows における Plumtree Search のインストール	4-23
	Plumtree Search 用の Windows サービスの起動	4-23
	Plumtree Automation Service のインストールと起動	4-24
	プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスのインストールと起動	4-24
	ドキュメント リポジトリ サービスのトラブルシューティング	4-25
	プラムツリー API サービスのインストール	4-25
	プラムツリー コンテンツ アップロード サービスのインストール	4-26
	コンテンツ アップロード サービスのトラブルシューティング	4-27
	プラムツリー ポータルのインストール	4-27
	Diagnostic Tool	4-27
	ポータル サービスの起動	4-28
	インストールの確認	4-29
	接続のテスト	4-29
	ログの分析	4-32
	ポータルのログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法	4-33
	Plumtree Logging Spy	4-34
5	Foundation 6.0 へのアップグレード方法	5-1
	Foundation 6.0 へのアップグレード方法	5-1
	準備手順	5-1
	Plumtree Database Upgrade Tool	5-1
	Foundation 6.0 から Foundation 6.0 SP1 へのアップグレード	5-8
6	インストール後の手順	6-1
7	ポータル コンポーネントのアンインストール	7-1
A	導入コンポーネントの設定用ワークシート	A-1

	プラムツリー コンポーネントとホスト コンピュータの割り当て用ワークシート	A-1
	インストール ワークシート	A-4
	プラムツリー管理ポータル用のワークシート	A-5
	Plumtree Automation Service 用のワークシート	A-6
	プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス用のワークシート	A-7
	.NET 版 Plumtree Image Service 用のワークシート	A-8
	.NET 版ポータル サーバー用のワークシート	A-9
	Plumtree Search 用のワークシート	A-10
B	XML 設定ファイルのアップグレード	B-1
	結合ファイル	B-1
	置き換えられるファイル	B-3
	新しいファイル	B-3
	再利用するファイル	B-4
C	Windows ホストのメモリーの設定	C-1
D	ウェブ アプリケーション サーバーの設定	D-1
	IIS の設定	D-1
	IIS の設定	D-1
	プラムツリーのインストーラを実行する前の IIS の設定	D-2
	プラムツリーのインストーラを実行した後の IIS の設定	D-3
	IIS のメモリー使用の設定	D-3
	WebLogic の設定	D-4
	プラムツリーのインストーラを実行する前の WebLogic の設定	D-4
	プラムツリーのインストーラを実行した後の WebLogic の設定	D-5
	WebLogic へのプラムツリー コンポーネントの導入	D-5
	WebSphere の設定	D-6
	プラムツリーのインストーラを実行する前の WebSphere の設定	D-6
	WebSphere へのプラムツリー コンポーネントの導入	D-7
	Tomcat の設定	D-7
	プラムツリーのインストーラを実行する前の Tomcat の設定	D-7
	Tomcat へのプラムツリー コンポーネントの導入	D-8
E	Oracle データベース内にテーブルスペースとスキーマを作成する方法	E-1
F	別の URL からリダイレクトする方法	F-1
索引	I-1

1 Plumtree Foundation へようこそ

このマニュアルでは、Plumtree Foundation のコンポーネントのインストール方法について説明します。ポータル管理者は、まずこのマニュアルをお読みになり、確実なポータル導入戦略を策定した上で、このマニュアルに記載されている作業に取り掛かることをお勧めします。そうすることによって、Plumtree Foundation の優れた機能を活用し、会社に変化する度に再構成または再作成する必要のない、会社とともに成長する安定性のある使い易いポータルを作成することができます。

対象ユーザー

このマニュアルは、ポータル システムのインストールおよび維持管理、ポータルへの情報の投入、ユーザーがプロジェクトを共有するための環境の構築、Plumtree Foundation のユーザーとグループの管理、およびポータルの使い易さを向上させるためのその他の作業を受け持つポータル管理者を対象にしています。

記述方法

このマニュアルでは、以下の記述方法を使用します。

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none">ファイル名フォルダ名画面要素	太字	<ul style="list-style-type: none">Procedures.doc をポータルにアップロードします。General フォルダを開きます。変更内容を保存するには、[変更を適用] をクリックします。
<ul style="list-style-type: none">入力するテキスト	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none">コミュニティの名前に Marketing と入力します。
入力する変数	コンピュータ フォント、 斜め体	ポートレット サーバーのベース URL を入力してください。 例: <code>http://mycomputer/</code>
<ul style="list-style-type: none">新しい用語強調表示プラムツリー オブジェクト名の例	斜め体	<ul style="list-style-type: none">ポートレットは、ポータルに埋め込まれたウェブツールです。URI は、必ず一意の番号でなければなりません。図 5 のナレッジ ディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。

本マニュアルで使用しているアイコンについて

このマニュアルでは、以下のアイコンを使用します。



注意：「注意」アイコンは、段落の内容に関連するヒント、ベスト プラクティス、または追加情報を示します。



セキュリティ：「セキュリティ」アイコンは、ポータルセキュリティに関連する重要な情報を示します。




重要：「重要」アイコンは、段落の内容に関連する重要な情報（警告を含む）を示します。

プラムツリーの資料およびリソース

この節では、プラムツリーが提供している資料およびリソースについて説明します。

リソース名	内容
管理者用ガイド	このマニュアルには、Plumtree Foundation のポータルの管理、メンテナンス、およびトラブルシューティング方法に関する説明が記載されています。 Plumtree Product Center から電子形式（PDF）で入手できます。
アップグレードガイド	ポータル管理者用のマニュアルです。Plumtree Foundation のアップグレード方法が記載されています。 Plumtree Product Center から電子形式（PDF）で入手できます。
リリース ノート	ポータル管理者用のファイルです。そのリリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が記載されています。 Plumtree Product Center から電子形式（HTML）で入手できます。
開発者用ガイド、クイック スタートガイド、API 関連資料、およびサンプル コード	開発者用の資料です。これらには、Plumtree Application Suite のユーザー インタフェースおよび機能のカスタマイズ方法の説明が記載されています。 Plumtree Support Center および Developer Center から入手可能な製品インストール パッケージに収録されています。
導入ガイド	ビジネス アナリストやシステム管理者向けの資料です。Plumtree Application Suite の導入計画の策定方法に関する説明が記載されています。 Plumtree Deployment Center から電子形式（PDF）で入手できます。

リソース名	内容
オンライン ヘルプ	<p>オンライン ヘルプは、ポータルすべてのレベルのユーザーが利用できます。ポータルのユーザー インタフェースの説明およびポータルで作業を行うための詳細手順が記載されています。</p> <p>オンライン ヘルプにアクセスするには、ポータル バナーの右上の端またはポートレット内に表示されている  [ヘルプ] をクリックしてください。</p>
Plumtree Support Center	<p>Plumtree Support Center は、プラムツリー製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品や資料の入手、ナレッジ ベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、プラムツリー関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p>Technical Support Center</p> <p>サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジ ベースの検索、資料の入手、サービス パックおよびホット フィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p>Deployment Center</p> <p>Plumtree Application Suite の導入の展開、促進、および管理のためのツールを検索することができます。同僚と戦略的なビジネス目標および技術目標に取り組んだり、アプリケーションのベスト プラクティスを習得したり、ポータルの導入例をダウンロードしたり、投資回収率を算出したりすることができます。</p> <p>Product Center</p> <p>製品のダウンロード、リリース ノートの参照、最新の製品資料の入手、インターオペラビリティに関する情報の入手などが可能です。</p> <p>Developer Center</p> <p>開発者用のツールや資料をダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、ディスカッション フォーラムを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。</p> <p>Education Center</p> <p>トレーニング コースに関する情報の入手、トレーニング クレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために support@plumtree.com にお問い合わせください。 http://portal.plumtree.com</p>

リソース名	内容										
技術サポート	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、プラムツリー技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポート ニーズに対応致します。</p> <p>電子メール : support@plumtree.com</p> <p>電話番号 :</p> <table> <tr> <td>米国およびカナダ</td><td>+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</td></tr> <tr> <td>アジア パシフィック</td><td>+61 2.9931.7822</td></tr> <tr> <td>ヨーロッパと英国</td><td>+44 (0)1628 589124</td></tr> <tr> <td>フランス</td><td>+33 1.46.91.86.79</td></tr> <tr> <td>シンガポール</td><td>+65 6832.7747</td></tr> </table>	米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)	アジア パシフィック	+61 2.9931.7822	ヨーロッパと英国	+44 (0)1628 589124	フランス	+33 1.46.91.86.79	シンガポール	+65 6832.7747
米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)										
アジア パシフィック	+61 2.9931.7822										
ヨーロッパと英国	+44 (0)1628 589124										
フランス	+33 1.46.91.86.79										
シンガポール	+65 6832.7747										

2 ポータル コンポーネントの概要

この章では、Plumtree Foundation のコンポーネントの概要を説明し、それらの個々のコンポーネントのインストール マニュアルを示します。この章には以下の節が含まれています。

- [「Foundation のコア コンポーネント」、2-1 ページ](#)
- [「認証コンポーネント」、2-3 ページ](#)
- [「プラムツリー サーバー コンポーネント」、2-3 ページ](#)
- [「プラムツリー統合製品のコンポーネント」、2-3 ページ](#)

ポータル ソリューションの概要とポータルの導入オプションの詳細については、『プラムツリー エンタープライズ ウェブ サイト 導入ガイド』を参照してください。



注意：ポータルの支援技術バージョンと低帯域幅バージョンでは、管理機能はサポートされていません。ポータルの支援技術バージョンと低帯域幅バージョンでは、マイ ページ、コミュニティ、およびナレッジ ディレクトリは使用できます。

Foundation のコア コンポーネント

このガイドでは、Plumtree Foundation の下記のコア コンポーネントのインストール方法について説明します。

コンポーネント	説明
ポータル サーバー	ポータル サーバーは、エンドユーザーに対してポータル ページおよびコンテンツを配信します。 エンドユーザーは、ポータル サーバーが提供するマイ ページ、コミュニティ ページ、ナレッジ ディレクトリ、および Plumtree Search を通してコンテンツにアクセスすることができます。また、ポータル の基本設定やコミュニティの管理といった管理作業も行うことができます。
プラムツリー管理ポータル	プラムツリー管理ポータルでは、ポータルのセットアップ、設定、コンテンツの管理などを行うことができます。 プラムツリー管理ポータルは、ポータル やその他のウェブサービスの作成および管理などを行うための管理機能を提供します。
Plumtree Image Service	Plumtree Image Service は、ポータル コンポーネントにおいて使用または作成される静的コンテンツを配信します。 Plumtree Image Service は、プラムツリー システムで使用されるイメージおよびその他の静的コンテンツを配信します。

Plumtree Search	<p>Plumtree Search は、ポータルに格納されているインデックスされたコンテンツを返します。</p> <p>Plumtree Search は、ポータル、Plumtree Collaboration、および Plumtree Publisher からインデックスされたプラムツリー システムのコンテンツを返します。プラムツリー システムのインデックスされたコンテンツには、ドキュメント、ポートレット、コミュニティ、ユーザー、および多数の他のプラムツリー オブジェクトが含まれています。</p>
Plumtree Automation Service	<p>Plumtree Automation Service は、ジョブおよびその他の自動化されたポータル タスクを実行します。</p> <p>Plumtree Automation Service は、ナレッジ ディレクトリにドキュメントをクロールするためのタスク、グループやユーザーを外部の認証元と同期化するためのタスク、検索コレクションを維持するためのタスクなどを実行するためのジョブを実行します。</p>
プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス	<p>プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスには、ポータル コンポーネントによってアップロードされたドキュメントが格納されます。</p> <p>プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスには、Plumtree Collaboration または Plumtree Publisher にアップロードされたイメージやドキュメント等、プラムツリー システムにアップロードされたコンテンツが格納されます。</p>
プラムツリー API サービス	<p>プラムツリー API サービスは、プラムツリーの SOAP API へのアクセスを提供します。</p> <p>API 用の個別のサーバーを設置することによって、ポータルの導入において（特にエクストラネットを導入している場合）、より大きな柔軟性を得ることができます。</p>
プラムツリー コンテンツ アップロード サービス	<p>プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスにファイルをアップロードして、ナレッジ ディレクトリからそれらのファイルを利用できるようにします。</p> <p>これにより、内部のファイル ネットワークへのアクセス権を持っていないポータル ユーザー（例えば、エクストラネット ユーザー）が、ポータル ナレッジ ディレクトリにファイルを提出できるようになります。</p>

認証コンポーネント

下記のコンポーネントは、ポータルの認証リソースを提供します。

コンポーネント	説明
Plumtree Identity Service - Active Directory	Plumtree Identity Service - Active Directory を使用することによって、Active Directory ユーザーと Active Directory グループをポータルにインポートし、ネットワーク内またはネットワーク外のリポジトリに対して認証を行うことができます。さらに、ポータル管理者は、Active Directory にアクセスするリモートの認証元を作成することができます。
Plumtree Identity Service - LDAP	Plumtree Identity Service - LDAP を使用することによって、外部ソースからユーザーとユーザー情報をポータルにインポートすることができます。その後で、これらの情報をプラムツリー プロパティにマップし、プラムツリー データベースに保存することができます。

プラムツリー サーバー コンポーネント

以下の表に、コラボレーション機能、コンテンツ管理機能、ウェブ アプリケーションの作成機能などを提供するプラムツリー サーバー コンポーネントと、それぞれのインストール方法が記載されているインストール マニュアルの一覧を示します。

コンポーネント	マニュアル名
Plumtree Collaboration	<i>Installation Guide for Plumtree Collaboration</i>
Plumtree Publisher	<i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Publisher</i>
Plumtree Studio	<i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Studio</i>

プラムツリー統合製品のコンポーネント

ポータルで使用されるドキュメント タイプをサポートするための追加ポートレットやコンテンツ ウェブ サービスのインストールに関する情報は、Plumtree Product Center ウェブ サイト (<http://portal.plumtree.com>) から入手できます。

Plumtree Support Center のアカウントをお持ちでない場合は、support@plumtree.com にアカウント作成依頼メールを送信してください。

3

インストールの準備手順

ポータルを構成する Plumtree Foundation のコンポーネントをインストールする前に、どのコンピュータにどのコンポーネントを導入するかを決定する必要があります。また、個々のコンポーネントを設定するための情報も必要になります。

ポータルのインストールに関する必要な決定を行うためには、まず『*Plumtree Foundation 管理者用ガイド*』と『*Plumtree Application Suite G6 導入ガイド*』の内容に精通する必要があります。

[「導入コンポーネントの設定用ワークシート」](#)、[A-1 ページ](#)のワークシートは、個々のポータル コンポーネントのインストール時に入力する必要があるデータを整理することに役立ちます。これらのワークシートを印刷して、ポータルのインストールに必要な値を記入することをお勧めします。

運用環境へのインストールの場合、使用するコンピュータの台数、およびそれらのコンピュータにわたって個々のコンポーネントを導入する方法を決定することは複雑な問題です。これらについては、ポータルにアクセスするユーザー数、ポータルを通して利用可能にするファイルの数、ポータルでサポートする必要のある外部アプリケーションおよびポートレットの数などの様々な要素に基づいて決定する必要があります。最終的な決定は、プラムツリーのコンサルティング サービス (PCS) またはプラムツリー インテグレーション パートナーとご相談の上行ってください。

ポータルの導入オプションに関する詳細については、『*Plumtree Application Suite G6 導入ガイド*』を参照してください。

この章の各節では、Plumtree Foundation のコンポーネントの導入に備えてネットワークやホスト コンピュータを準備するための次の基本手順について説明します。

1. 導入の進め方に影響を与える可能性のある互換性の問題、既知の問題、および回避策に関する情報を習得するために、製品のリリース ノートをお読みになってください。リリース ノートは、製品パッケージのトップレベル ディレクトリに収録されています。
2. ポータルのコンポーネントについて理解を深める必要があります。『*Plumtree Application Suite G6 導入ガイド*』と [第 2 章「ポータル コンポーネントの概要」](#)をお読みになってください。
3. 貴社のポータル環境に必要なホスト コンピュータを用意してください。詳細については、[「ハードウェアの必要条件」](#)を参照してください。

運用システムの場合、プラムツリーは、オペレーティング システムが新しくインストールされたホスト コンピュータを用意することをお勧めします。

4. 依存するソフトウェアをインストールし、それらのソフトウェアをポータルの導入に備えて設定してください。詳細については、[「ソフトウェアの必要条件」](#)、[3-2 ページ](#)を参照してください。
5. [付録 A 「導入コンポーネントの設定用ワークシート」](#)の導入コンポーネントの設定用ワークシートに情報を記入してください。
6. Plumtree Automation Service コンポーネントのホスト コンピュータで、Plumtree Automation Service ユーザーのアクセス権限を設定してください。詳細については、[「必要な管理ユーザー権限」](#)、[3-3 ページ](#)を参照してください。

ハードウェアの必要条件

『Plumtree Application Suite G6 導入ガイド』の説明に従って、ポータルに必要な容量を持つホスト コンピュータに必要な台数だけ用意してください。

以下の表に、ポータルのコンポーネントをホストするコンピュータのハードウェアの推奨条件と最低条件を示します。

推奨ハードウェア構成	最小ハードウェア構成
2 Ghz 以上のプロセッサ	600 MHz Pentium III プロセッサ
2 GB の RAM	512 MB の RAM
10 GB のディスク容量	4 GB のディスク容量

ソフトウェアの必要条件

以下の表では、プラムツリー コンポーネントに必要なオペレーティング システムの条件とソフトウェアの互換性に関するリリース時現在の情報の要約を示します。サポートされているプラットフォームに関する最新情報については、<http://portal.plumtree.com> の Product Center にアクセスし、**[Interoperability]** をクリックして「Interoperability Matrix」を参照してください。

オペレーティング システム	データベース サーバー	ウェブ アプリケーション サーバー
Windows 2003 SP1	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft SQL Server 2000 SP3a Oracle 9i (9.2.0.4) Oracle 10g (10.1.0.3) 	<ul style="list-style-type: none"> Apache Tomcat 5.0.28 (JDK 1.4.2) BEA WebLogic 8.1 SP4 (JDK 1.4.2) IBM WebSphere 6.0.1 (JDK 1.4.2) Microsoft IIS 6.0 .NET 1.1 SP1

ブラウザの必要条件

管理ユーザー : Internet Explorer 5.5 または 6.0

閲覧ユーザー : Netscape 7.2、Internet Explorer 5.5、Internet Explorer 6.0、Firefox 1.0、または Safari 1.2 (Mac のみ)

プラムツリーは、MDAC や Tomcat ウェブ アプリケーション サーバーなどを含む、プラムツリーのインストールに必要な再配布可能なソフトウェアおよびソフトウェアのパッチを提供しています。これらのリソースは、Plumtree Product Center から入手できます。

- ！ 重要：** プラムツリー インストーラを実行する前に、[付録 C 「Windows ホストのメモリーの設定」](#) の説明に従って、オペレーティング システムのメモリーを設定する必要があります。
- ！ 重要：** プラムツリー インストーラを実行する前に、[付録 D 「ウェブ アプリケーション サーバーの設定」](#) の説明に従って、ウェブ アプリケーション サーバーを設定する必要があります。

必要な管理ユーザー権限

ポータル コンポーネントをインストールし実行するには、次の管理ユーザー権限が必要になります。

ユーザー	権限
ローカル ホストの管理者 アカウント	ポータル コンポーネントをインストールするには、ローカル管理者としてホスト コンピュータにログインする必要があります。
専用の Windows ユーザー アカウント	<p>Plumtree Automation Service をインストールする前に、Plumtree Automation Service のファイルを所有し、プロセスを実行するための Windows ユーザー アカウントを作成する必要があります。</p> <p>プラムツリーは、この Plumtree Automation Service のユーザー アカウントに、Plumtree Automation Service に必要なすべての権限を与えるために、管理権限を設定することをお勧めします。</p>

4

ポータル コンポーネントのインストール

この章では、ポータル コンポーネントをインストールするための以下の手順について説明します。

1. インストールの準備手順が済んでいることの確認
詳細については、[第3章「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
2. ウェブ アプリケーション サーバーがポータルの導入に適合するように正しく設定されていることの確認
詳細については、[付録D「ウェブ アプリケーション サーバーの設定」](#)を参照してください。
3. プラムツリー管理ポータルのインストール
詳細については、[「プラムツリー管理ポータルのインストール」、4-8 ページ](#)を参照してください。
4. プラムツリー データベースの設定
詳細については、[「プラムツリー データベースの設定」、4-9 ページ](#)を参照してください。
5. Plumtree Image Service のインストールとウェブ サーバーへの導入
詳細については、[「Plumtree Image Service のインストールと導入」、4-21 ページ](#)を参照してください。
6. Plumtree Search のインストールと起動
詳細については、[「Plumtree Search のインストールと起動」、4-23 ページ](#)を参照してください。
7. Plumtree Automation Service のインストールと起動
詳細については、[「Plumtree Automation Service のインストールと起動」、4-24 ページ](#)を参照してください。
8. プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスのインストールと起動
詳細については、[「プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスのインストールと起動」、4-24 ページ](#)を参照してください。
9. プラムツリー API サービスのインストール
詳細については、[「プラムツリー API サービスのインストール」、4-25 ページ](#)を参照してください。
10. プラムツリー ポータルのインストール
詳細については、[「プラムツリー ポータルのインストール」、4-27 ページ](#)を参照してください。
11. すべてのポータル サービスの起動
詳細については、[「ポータル サービスの起動」、4-28 ページ](#)を参照してください。
12. インストール環境の確認
詳細については、[「インストールの確認」、4-29 ページ](#)を参照してください。

プラムツリー コンポーネントのインストール

この節では、ポータル コンポーネントのインストール方法について説明します。

プラムツリー コンポーネントをインストールするには次を行います。

1. ホスト コンピュータにローカル管理者としてログインします。

2. インストーラを使用して、ポータル コンポーネントを WebLogic アプリケーション サーバーまたは WebSphere アプリケーション サーバーに導入するには、ウェブ アプリケーション サーバーを起動します。

IIS または Tomcat アプリケーション サーバーに導入する場合は、アプリケーション サーバーを起動する必要はありません。
3. インストーラ (**PlumtreeFoundation_v6-0.exe**) をプラムツリーのリリース メディアからインストーラを実行するハードディスク上のディレクトリにコピーします (例えば、**C:¥Temp**)。
4. 不要なアプリケーションやウィンドウをすべて閉じます。
5. **PlumtreeFoundation_v6-0.exe** をダブルクリックしてインストール ウィザードを起動します。
6. [付録 A 「導入コンポーネントの設定用ワークシート」](#) の設定用ワークシートに記入した設定に基づいて、以下の表に示すインストール ウィザードのページに情報を入力します。



注意： 導入しているウェブ アプリケーション サーバーまたはプラムツリー コンポーネントに関係のない設定のページは、ウィザードに表示されません。

ウィザードのページ	説明
License Agreement	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。
Installation Folder	デフォルト値である C:¥Program Files¥plumtree をそのまま使用します。
Upgrade Information	インストールされている既存のポータル製品のバージョンが表示されます。

ウィザードのページ	説明
Upgrade Option	<p>4.5 WS SP2 から 6.0 にアップグレードする場合以外は次の手順に従ってください。</p> <p>[Upgrade] または [New Install] のいずれかを選択します。[Upgrade] を選択した場合、アップグレードが必要なすべてのコンポーネントがインストーラによって自動的に検出され、アップグレードされます。また、それ以降のインストーラのページはほとんど省略され、既存のインストール環境から抽出できない設定のみ入力することになります（例えば、インストール環境の種類（.NET または Java）やプラムツリー API サービスに関する情報）。さらに、XML 設定ファイルの構造が変更されます。詳細については、付録 B 「XML 設定ファイルのアップグレード」を参照してください。</p> <p>注意：複数のポータル コンポーネントがコンピュータに既に導入されている場合、特定のコンポーネントのより新しいバージョンをインストールするには、[New Install] を実行する必要があります。[New Install] を選択すると、インストーラ ページのフルセットが表示されます。</p> <p>4.5 WS SP2 から 6.0 にアップグレードする場合は次の手順に従ってください。</p> <p>[Upgrade] または [New Install] のいずれかを選択します。[Upgrade] を選択した場合、インストーラによって既存のインストール環境から情報が取得され、それ以降のインストーラの設定ページは省略されます。さらに、XML 設定ファイルの構造が変更されます。詳細については、付録 B 「XML 設定ファイルのアップグレード」を参照してください。</p> <p>注意：[Upgrade] を選択した場合、アップグレードが必要なすべてのコンポーネントがインストーラによって検出され、アップグレードされます。複数のポータル コンポーネントがコンピュータに既に導入されている場合、特定のコンポーネントをインストールするには、[New Install] を実行する必要があります。</p>
Choose Install Set	<p>[Complete] または [Custom] を選択します。[Complete] を選択した場合、Foundation コンポーネントのフルセットがインストールされます。</p> <p>[Custom] を選択した場合、貴社の導入プランに基づいて必要なポータル コンポーネントを選択し、インストールすることができます。</p>
Web Application Environment	<p>.NET または Java を選択します。Java を選択した場合、Java ウェブ サーバー（WebSphere、WebLogic、Tomcat）に必要な設定を入力するためのページが表示されます（下記参照）。</p>
Auto-Deployment to a Java Web Application Server	<p>管理ポータルまたはポータルを導入する Java ウェブ アプリケーション サーバーを指定します。</p>

ウィザードのページ	説明
Image Service: Auto-Deployment to Apache	Image Service は、自動的に Apache に導入されます。Apache 以外のウェブサーバーを使用する場合は、 [Manual] を指定します。
Apache Deployment Information	<p>Apache の設定ディレクトリを指定します。これは、Apache の httpd.conf ファイルへのフルパスです。</p> <p>Apache 用の Windows サービスの名前を指定します。これは、Apache を実行する Windows サービスの名前です。デフォルトの名前は、Apache2 です。</p>
Select IIS Web Site	<p>IIS Web Site: Default or Other</p> <p>インストールするコンポーネントをデフォルトの HTTP ポートであるポート 80 に導入する場合は、[Use Default Web Site] を選択します。</p> <p>ポート 80 を使用した場合、ポート 80 を使用するほかのアプリケーションとポートを共有することになります。ポートを共有させない場合は、[Use another Web site] を選択します。</p>
Image Service Compression on IIS	デフォルトで [Enable Image Service HTTP Compression] チェックボックスがオンになっています。HTTP 圧縮を使用しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

ウィザードのページ	説明
Specify IIS Web Site Information	IIS Web Site Name デフォルト以外の IIS ウェブ サイトを使用するように選択した場合は、ローカル コンピュータ上のポータル コンポーネントにアクセスするために使用する IIS ウェブ サイトの名前を指定します。 入力した名前が既存の IIS ウェブ サイトの名前ではない場合、新しいウェブ サイトが作成されます。
	IIS Web Site Port (Non-Secure Port) デフォルト以外の IIS ウェブ サイトを使用するように選択した場合は、IIS Web Site Name に指定したウェブ サイト用の HTTP ポート番号を入力します。 ウィザードには、代替ポートとして 8081 が表示されます。必要な場合は、この設定を変更します。 この IIS ウェブ サイトが既存のウェブ サイトであり、異なるポート番号を使用している場合は、ここで入力したポート番号によって上書きされます。
	IIS Web Site Secure Port デフォルト以外の IIS ウェブ サイトを使用するように選択した場合は、IIS Web Site Name に指定したウェブ サイト用の HTTPS ポート番号を入力します。 ウィザードには、代替ポートとして 9091 が表示されます。必要な場合は、この設定を変更します。 この IIS ウェブ サイトが既存のウェブ サイトであり、異なるポート番号を使用している場合は、ここで入力したポート番号によって上書きされます。
Fully Qualified Domain Name and Ports	プラムツリー ポータルの完全修飾ドメイン名とポート番号を指定します。 「http://」プレフィックスは含めないで下さい。 ドメイン名の例： portal.mycompany.com 非セキュア ポート (http) の例： 80 セキュア ポート (https ポート) の例： 443
Content Upload Service - Application Port	http または https を選択します。 プラムツリー コンテンツ アップロード サービスで要求を処理するために使用するポート番号を入力します。
API Service - Application Port	http または https を選択します。 プラムツリー API サービスで要求を処理するために使用するポート番号を入力します。

ウィザードのページ	説明
External Portal URL	ローカル ネットワークの外からアクセスする場合にブラウザで指定するプラムツリー ポータルの URL を入力します。 例 : <code>http://portal.mydomain.com:80/portal</code>
API Service URL	プラムツリー API サービスの URL とポート番号を入力します。 例 : <code>http://wsserver.mydomain.com:11905</code>
Image Service URL	Plumtree Image Service の URL を入力します。ポート番号が 80 または 443 以外の場合は、ポート番号も併せて指定します。 例 : <code>http://web-apps.portal.com:8082/imageserver</code>
Search Host Name and Port	Plumtree Search のホスト コンピュータのホスト名とポート番号を入力します。 ホスト名の例 : <code>back-end-services.portal.com</code> ポート番号の例 : 15244
Search Collection Treatment	新しい検索コレクションを使用する場合は、[Overwrite] チェックボックスをオンにします。
Default Automation Service Computer	デフォルトの Plumtree Automation Service のホスト コンピュータのホスト名を入力します。 例 : <code>myautoserver</code>
Automation Service Port	Plumtree Automation Service の IP ポート番号を入力します。 例 : 7777
Portal Database	SQL Server または Oracle を選択します。
Portal Database Connection Information	ホスト名、ポート番号、データベース名またはサービス名、管理ユーザー情報といった接続情報を指定します。
Document Repository Service - Application Port	http または https を選択します。 ドキュメント リポジトリのウェブ コンポーネントで要求を処理するために使用するポート番号を指定します。 例 : 8020
Document Repository Service Host and Port	プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスのホスト コンピュータのホスト名とポート番号を入力します。 ホスト名の例 : <code>back-end-services.portal.com</code> ポート番号の例 : 8020

ウィザードのページ	説明
WebLogic	WebLogic Home WebLogic のインストール ディレクトリを指定します。 例 : C:\bea\weblogic81
	WebLogic Domain Home ウェブ アプリケーションを実行する WebLogic サーバーが導入されているドメイン フォルダへのフルパスを指定します。 例 : C:\bea\user_projects\domains\mydomain\
	WebLogic Host Name WebLogic アプリケーション サーバーがインストールされているホストを指定します。 例 : myhost
	WebLogic Port WebLogic がブラウザと通信するために使用するポート番号を指定します。
	WebLogic Domain コンポーネントを実行する WebLogic サーバーが含まれているドメインを指定します。 例 : mydomain 注意 : WebLogic のドメイン名とサーバー名の大文字と小文字は区別されます。入力したドメイン名とサーバー名の活字体が実際に稼動している WebLogic のドメインとサーバーに一致していない場合、自動導入は失敗します。
	WebLogic Server コンポーネントを実行する WebLogic サーバーを指定します。 例 : myserver 注意 : WebLogic のドメイン名とサーバー名の大文字と小文字は区別されます。入力したドメイン名とサーバー名の活字体が実際に稼動している WebLogic のドメインとサーバーに一致していない場合、自動導入は失敗します。
	WebLogic Admin User WebLogic の管理者のユーザー名を指定します。 例 : system
	Admin User Password

ウィザードのページ	説明
WebSphere	WebSphere Home WebSphere のインストール ディレクトリを指定します。 例 : C:\IBM\WebSphere\AppServer
	WebSphere Host Name ポータル コンポーネントを導入する WebSphere ホストを指定します。デフォルトは、default_host です。この値を変更することは可能ですが、代わりに使用するホストが既に作成されている場合のみ変更してください。 例 : default-host
	WebSphere SOAP Port WebSphere がコンポーネントと通信するために使用する SOAP ポートを指定します。デフォルトは 8080 です。
	WebSphere Application Server Name コンポーネントを導入するアプリケーション サーバーを指定します。デフォルトは、Default Server です。この値を変更することは可能ですが、適切なノード内にアプリケーション サーバーのインスタンスが既に作成されている場合のみ変更してください。 例 : server1
Tomcat Deployment Information	Web Application Deployment directory ウェブ アプリケーションの設定ファイルが格納されているディレクトリへのパスを指定します。 例 : C:\jakarta-tomcat-5.0.28\conf\Catalina\localhost

インストーラによって、インストール プロセスのログ ファイルとサイレント プロパティ ファイルがポータルのインストール ディレクトリ内に生成されます。ログ ファイルを参照して、インストールが正常に終了したことを確認してください。インストールが正常に終了したことを確認する方法の詳細については、[「インストールの確認」、4-29 ページ](#)を参照してください。

プラムツリー管理ポータルのインストール

ほかのプラムツリー コンポーネントをインストールする前に、プラムツリー管理ポータル コンポーネントをインストールする必要があります。管理ポータルをインストールする際に、ほかのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

プラムツリー管理ポータルをインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

プラムツリー データベースの設定

この節では、ポータル データベースの設定手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「SQL Server データベースの作成と設定」、4-9 ページ](#)
- [「Windows における Oracle データベースの作成と設定」、4-11 ページ](#)

SQL Server データベースの作成と設定

Microsoft SQL Server 上にプラムツリー データベースを作成するには次を行います。

1. 次の手順に従ってプラムツリー データベース ユーザーを作成します。
 - a. [**スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager**] を選択して Enterprise Manager を開きます。
 - b. ナビゲーション枠で、オブジェクトを展開し、[**セキュリティ**] フォルダのサブフォルダを表示します。
 - c. [**ログイン**] アイコンを右クリックし、[**新規ログイン**] をクリックします。
 - d. [SQL Server ログインのプロパティ] ダイアログ ボックスで、プラムツリーのインストーラを実行した際に指定したユーザー名を入力します。
 - e. [認証] で、[**SQL Server 認証**] を選択して、プラムツリーのインストーラを実行した際に指定したパスワードを入力します。
 - f. パスワードの確認を行ってプロセスを完了させます。
2. プラムツリー データベースを作成し、次のように設定します。
 - 大文字と小文字を区別しないように、データベース サーバーを設定します。
 - プラムツリー管理ポータルをインストールしたときに指定したポータル データベースの名前を持つデータベースを作成します。
 - データベースの初期サイズを設定します。比較的小さなインストール システムの場合は、少なくとも 100 MB のデータベースを設定してください。20,000 人のユーザーを有する大規模なエンタープライズの場合は、1 GB 程度のデータベースを設定してください。
3. 次の手順に従って、プラムツリー データベースに対する権限をプラムツリー データベース ユーザーに割り当てます。
 - a. [**スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager**] を選択して Enterprise Manager を開きます。
 - b. ナビゲーション枠でオブジェクトを展開し、[**セキュリティ**] フォルダを選択します。
 - c. オブジェクト枠で [**ログイン**] アイコンをダブルクリックし、すべてのユーザーの一覧を表示させます。
 - d. [**ログイン**] 枠でプラムツリー ユーザーを右クリックし、[**プロパティ**] を選択します。
 - e. [**全般**] タブの [**規定値**] の [データベース] ドロップダウン リストで、プラムツリー データベースを選択します。
 - f. [**データベース アクセス**] タブをクリックします。

- g. [**このログインがアクセスできるデータベースを指定します**] で、プラムツリー データベースを選択します。
 - h. [**データベース ロール** < データベース名 >] で、[**public**] と [**db_owner**] を選択します。
 - i. [**OK**] をクリックします。
 - j. ナビゲーション枠で、オブジェクトを展開してプラムツリー データベースを表示し、プラムツリー データベースを右クリックして [**プロパティ**] を選択します。
 - k. [**権限**] タブをクリックして、プラムツリー データベース ユーザーにすべての権限を付与します。
4. SQL Server Query Analyzer を起動し、**SQL Server 認証** を使用して sa というユーザー名でプラムツリー データベースに接続します。マスター データベース（すなわち、sa ユーザーのデフォルト データベース）から上記で作成したプラムツリー データベースに切り替えます。
- sa ユーザーとして作成したデータベース オブジェクトは、dbo ユーザーが所有します。dbo ユーザーがオブジェクトを所有することの利点については、プラムツリー ナレッジベースの記事 DA_319052 を参照してください。
5. 既存のテーブル（存在する場合）を削除し、新しいポータル コンポーネントに必要なテーブルを作成するには、**<InstallDir>%ptportal%6.0%sql%mssql%create_tables_mssql.sql** スクリプトを実行します。
- スクリプトを実行するには次を行います。
- a. [**ファイル | 開く**] を選択して、[**クエリ ファイルを開く**] ダイアログ ボックスを表示させます。
 - b. データベースのスクリプト ファイルを参照して選択します。
 - c. [**クエリ | 実行**] をクリックします。
6. ポータルに必要なプラムツリー オブジェクトを作成するには、**<InstallDir>%ptportal%6.0%sql%mssql%load_seed_info_mssql.sql** スクリプトを実行します。
7. ポータルに必要なストアド プロシージャを作成するには、**<InstallDir>%ptportal%6.0%sql%mssql%stored_procs_mssql.sql** スクリプトを実行します。
8. ポータルに必要な設定情報を設定するには、**<InstallDir>%ptportal%6.0%sql%mssql%postinst_mssql.sql** スクリプトを実行します。



注意: 5 ～ 8 のスクリプトを実行した際にエラーが発生しないことを確認してください。

9. SQL Server Query Analyzer を閉じます。

Windows における Oracle データベースの作成と設定

この節では、Windows において、プラムツリー環境で使用するために設定された Oracle データベースを作成する方法について説明します。この節では、Oracle 製品が既にインストールされていて、データベースはまだ作成されていないことを前提としています。既存のデータベースが存在し、そのデータベースにプラムツリー スキーマを追加する場合は、[付録 E 「Oracle データベース内にテーブルスペースとスキーマを作成する方法」](#)を参照してください。

Windows において、Oracle のプラムツリー データベースを作成し設定するには、まずプラムツリーのスクリプトで参照される Oracle の環境変数を設定する必要があります。例えば、次のように環境変数を設定します。

Oracle 9i の場合：

```
set ORACLE_BASE = c:\oracle
set ORACLE_HOME = c:\oracle\ora92
set ORACLE_SID = PLUM
```

Oracle 10g の場合：

```
set ORACLE_BASE = c:\oracle
set ORACLE_HOME = c:\oracle\ora10
set ORACLE_SID = PLUM10
```

1. Oracle 9i の場合は、次を行います。
 - a. **<InstallDir>\ptportal\6.0\sql\oracle_nt9.2** 中のスクリプトをデータベースのホスト コンピュータの **%ORACLE_BASE%\admin\PLUM\plumtreescripts** にコピーします（必要な場合はこのディレクトリを作成してください）。
2. Oracle 10g の場合は、次を行います。
 - a. **<InstallDir>\ptportal\6.0\sql\oracle_nt10** 中のスクリプトをデータベースのホスト コンピュータの **%ORACLE_BASE%\admin\PLUM10\plumtreescripts** にコピーします（必要な場合はこのディレクトリを作成してください）。
3. 貴社の導入条件に合わせてスクリプトをカスタマイズします。詳細については、[「データベース スクリプトのカスタマイズ」](#)を参照してください。
4. [「Windows における Oracle スクリプトの実行」](#)、4-19 ページの説明に従って、スクリプトを実行します。
5. データベース用に Oracle Listener を設定します。

データベース スクリプトのカスタマイズ

以下の表の説明に従って、貴社の導入環境に適合するようにデータベース スクリプトをカスタマイズしてください。

ファイル	説明
crdb1_oracle_nt.sql	<p>ポータル データベースを作成するスクリプトです。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリプトの上部は、複数ディスクのインストール環境用のスクリプトであり、初期状態ではコメントになっています。スクリプトの下部は、単一ディスクのインストール環境用のスクリプトであり、運用システムにはお勧めしません。複数ディスクのインストール環境では、スクリプトの上部のコメントになっている部分を有効にし、スクリプトの下部をコメント化して無効にする必要があります。 ポータル スクリプトを実行するユーザーが Windows の Oracle グループに含まれていない場合は、次のように記述されている Oracle の connect 要求を修正する必要があります。 connect / as sysdba 例えば、「sysdba」権限を持つユーザーを指定するには次のように記述します。 connect sys/welcome as sysdba デフォルトのデータベース名 /Oracle SID として多数の箇所に記述されている PLUM を実際に使用する名前に変更します。 上記の変更を行った場合、次の行の中のファイル名 initPLUM.ora (または initPLUM10.ora) も必ず変更してください。 startup nomount pfile=...initPLUM.ora (9i) startup nomount pfile=...initPLUM10.ora (10g) 必要な場合は、スクリプトによって作成されるデータファイルのサイズを調整します。 Oracle 環境がマルチホーム環境である (すなわち、複数の Oracle バージョンを使用している) 場合は、ORACLE_HOME が記述されている箇所を具体的なパスで置き換えます。

ファイル	説明
crdb2_oracle_nt.sql	<p>このスクリプトでは、データベースを設定するために以下のスクリプトが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql • create_plumtree_user_oracle.sql • run_script_proc_oracle.sql <p>ポータル スクリプトを実行するユーザーが Windows の Oracle グループに含まれていない場合は、次のように記述されている Oracle の connect 要求を修正する必要があります。</p> <pre>connect / as sysdba</pre> <p>例えば、「sysdba」権限を持つユーザーを指定するには次のように記述します。</p> <pre>connect sys/welcome as sysdba</pre>
CreateService.bat	<p>Windows 上で、ポータル データベースがサービスとして稼動するように設定するスクリプトです。</p> <p>スクリプトを実行するには、次の例のように、データベースの SID を引数として指定する必要があります。</p> <pre>createservice PLUM (9i) createservice PLUM10 (10g)</pre> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の行の Oracle システム パスワード（デフォルトは welcome）を変更します。 <pre>ORADIM -NEW -SID %1 -INTPWD welcome - STARTMODE ...</pre> • initPLUM.ora (10g の場合は initPLUM10.ora) ファイルへのパスが正しくない場合は変更します。 CreateService.bat には、デフォルトで次のパスが設定されています。 <pre>%ORACLE_BASE%\admin¥%1¥pfile¥init%1.ora</pre> <p>%1 は、ポータル データベースの SID を表します。</p> <p>マルチホーム環境の場合は、上記のパスを有効な絶対パスに変更する必要があります。</p>

ファイル	説明
create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql	<p>単一ディスク上にあるポータル データベース用のテーブルスペースを作成するスクリプトです。ほとんどの運用システムでは、スクリプトを修正し、テーブルスペースを複数のディスクまたはデータベース認識型の RAID デバイスにわたって分散する必要があります。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのデータベース名 /Oracle SID として複数箇所に記述されている PLUM（または PLUM10）を実際に使用する名前に変更します。 必要な場合は、sysplum.dbf、undo1A.dbf、および temp1A.dbf データ ファイルのサイズと場所を変更します。 Oracle 環境がマルチホーム環境である（すなわち、複数の Oracle バージョンを使用している）場合は、ORACLE_HOME が記述されている箇所を具体的なパスで置き換えます。 AUTOALLOCATE ではなく UNIFORM（均一な）割り当てを使用するように設定します。
create_plumtree_user_oracle.sql	<p>定義文に基づいて、指定したユーザー名とパスワードを持つポータル データベース ユーザーを作成するスクリプトです。ユーザー名とパスワードは、インストール時に指定した Portal Database Name と Portal Database Password に一致する必要があります。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> create_plumtree_tablespace_*.sql の中のテーブルスペースの名前を変更した場合は、このスクリプトの次の行に設定されている名前を変更します。 <pre>default tablespace PLUMTABLE temporary tablespace PLUMTEMP quota unlimited on PLUMTABLE;</pre>

ファイル	説明
create_spfile_oracle_nt.sql	<p>必要な場合は、このスクリプトを使用して Oracle SPFILE を作成することができます。SPFILE を使用する利点については、Oracle の資料を参照してください。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのパスワード welcome を変更します。 ORACLE_HOME を有効なパスに変更します（マルチホーム環境の場合）。 initPLUM.ora（または initPLUM10.ora）の名前を変更した場合は、このファイルの中で、これらへの参照文および作成される SPFILE の名前を変更する必要があります。
create_tables_oracle.sql	<p>ポータル データベース内に必要なテーブルを構築するスクリプトです。このスクリプトを実行すると、これらのテーブルに格納されているすべての既存データが消去されます。</p> <p>このスクリプトを直接実行する必要はありません。init_plumtree_db_oracle.sql を実行した際にこのスクリプトが自動的に実行されます。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql の中で、インデックス テーブルスペース（PLUMINDEX）の名前を変更した場合は、このスクリプトでテーブルスペース名のグローバル変更を適用します。

ファイル	説明
initPLUM.ora initPLUM10.ora	<p>ユーザーによる RDBMS インストール環境のカスタマイズを支援するために Oracle が提供している INIT.ORA ファイルのプラムツリー バージョンです。プラムツリー バージョンである initPLUM.ora には、小規模、中規模、および大規模のインストール環境のそれぞれに対する推奨設定が含まれています。初期設定では、中規模と大規模のインストール環境用の設定はコメントになっています。これらの設定を参照し、貴社のインストール環境に適合していることを確認してください。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の行に設定されているデータベースの名前を変更します（デフォルトは PLUM、または 10g の場合は PLUM10）。 <pre>db_name = PLUM</pre> initPLUM.ora（または initPLUM10.ora）の中でデータベースの名前を変更した場合は、データベース名に一致するようにファイル名も変更する必要があります。例えば、データベースの名前を OURDB に変更した場合、ファイル名を initOURDB.ora に変更する必要があります。 インストール環境の条件に合わせて設定を調整します。
init_plumtree_db_oracle.sql	<p>このスクリプトでは、以下のスクリプトが実行されます。</p> <pre>create_tables_oracle.sql load_seed_info_oracle.sql stored_procs_oracle.sql postinst_oracle.sql</pre> <p>このスクリプトを編集する必要はありません。</p>
load_seed_info_oracle.sql	<p>プロパティ、プラムツリー認証元、およびグローバルドキュメント タイプ マップとグローバル プロパティ マップのデフォルト値を含む、プラムツリー システムに付属している管理アイテムを作成するスクリプトです。</p> <p>このスクリプトを直接実行する必要はありません。init_plumtree_db_oracle.sql を実行した際にこのスクリプトが自動的に実行されます。</p> <p>このスクリプトを編集する必要はありません。</p>

ファイル	説明
postinst_oracle.sql	<p>postinst_oracle.sql スクリプトには、インストール環境に固有の設定パラメータをデータベースに設定するための更新操作が記載されています。このスクリプトは、インストール時に入力した情報に基づいて、ポータルのインストールによって生成されます。</p> <p>このスクリプトを直接実行する必要はありません。init_plumtree_db_oracle.sql を実行した際にこのスクリプトが自動的に実行されます。</p> <p>このスクリプトをカスタマイズする必要はありませんが、実行する前に、スクリプト内の値がポータルのインストール時に指定した値と同じであることを確認してください。</p>
RegisterSIDPLUM.reg RegisterSIDPLUM10.reg	<p>Windows で、ポータル データベースの SID をレジストリに登録するスクリプトです。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータル データベースに異なる名前を設定する場合は、デフォルトの SID である PLUM（または 10g の場合は PLUM10）を変更します。 スクリプトの中のデフォルト SID を変更した場合、ファイルの名前も SID に一致するように変更することをお勧めします。
run_script_proc_oracle.sql	<p>Oracle 定義の管理スクリプトを実行するスクリプトです。</p> <p>必要な場合は、次のプロパティをカスタマイズしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の行の Oracle システム パスワード（デフォルトは manager）を変更します。 connect system/manager
stored_procs_oracle.sql	<p>ポータル データベース内にストアード プロシージャとトリガを作成するスクリプトです。</p> <p>このスクリプトを編集する必要はありません。</p>

1 つのスクリプト内のデフォルト パスワードまたは SID を変更した場合は、ほかのスクリプトでも変更する必要があります。以下の表に変更する必要があるスクリプトを示します。

変更するデフォルト値	影響を受けるスクリプト
デフォルトの SID : PLUM	crdb1_oracle_nt.sql create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql initPLUM.ora initPLUM10.ora RegisterSIDPLUM.reg RegisterSIDPLUM10.reg create_spfile_oracle_nt.sql 注意: スクリプト内の PLUM (または PLUM10) を変更した場合は、initPLUM.ora (または initPLUM10.ora) のファイル名に設定されている SID を PLUM から変更した名前に変更する必要があります。PLUM を含むその他のスクリプトの名前も変更することをお勧めします。
デフォルトの sys password : <i>welcome</i>	crdb1_oracle_nt.sql crdb2_oracle_nt.sql CreateService.bat create_spfile_oracle_nt.sql
デフォルトのシステム パスワード : <i>manager</i>	run_script_proc_oracle.sql crdb2_oracle_nt.sql
デフォルトのテーブルスペースの名前	create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql create_plumtree_user_oracle.sql create_tables_oracle.sql
ORACLE_HOME (マルチホーム環境)	crdb1_oracle_nt.sql create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql create_spfile_oracle_nt.sql CreateService.bat

Windows における Oracle スクリプトの実行

この節の例では次のことを前提にしています。

- Oracle 9i プラムツリー データベースの場合、**ORACLE_SID** は PLUM に設定されており、Oracle 10g プラムツリー データベースの場合、**ORACLE_SID** は PLUM10 に設定されていること
- 下記のディレクトリにスクリプトをコピーするという推奨手順が実行済みであること
 %ORACLE_BASE%\admin\PLUM\plumtreescripts (Oracle 9i の場合)
 %ORACLE_BASE%\admin\PLUM10\plumtreescripts (Oracle 10g の場合)

[「Windows における Oracle スクリプトの実行」](#)の手順を実行すると、次のディレクトリにファイルが格納されます。

- Oracle 9i の場合 :
 - %ORACLE_BASE%\admin\PLUM\plumtreescripts にプラムツリーのスクリプトと **initPLUM.ora** のサンプル版が格納されます。
 - %ORACLE_BASE%\oradata\PLUM に PLUM データベースに関連付けられている Oracle データベース ファイルが格納されます。
 - %ORACLE_HOME%\database に **initPLUM.ora** のコピーが格納されます。
- Oracle 10g の場合 :
 - %ORACLE_BASE%\admin\PLUM10\plumtreescripts にプラムツリーのスクリプトと **initPLUM10.ora** のサンプル版が格納されます。
 - %ORACLE_BASE%\oradata\PLUM10 に PLUM10 データベースに関連付けられている Oracle データベース ファイルが格納されます。
 - %ORACLE_HOME%\database に **initPLUM10.ora** のコピーが格納されます。

ポータル データベースを作成し、設定するには次を行います。

1. Oracle のシステム ファイルの所有者としてポータル データベースのホスト コンピュータにログオンします。
2. Oracle のスクリプトが格納されているディレクトリに移動し、**RegisterSIDdb_name.reg** スクリプトを実行します。例えば、コマンドラインで次を入力します。

```
regedit RegisterSIDPLUM.reg
```

このコマンドを実行すると、スクリプトに設定されている SID 名がデフォルトの Oracle データベースとして登録されます。インストーラによってダウンロードされたときのこのスクリプトのファイル名は **RegisterSIDPLUM.reg** であり、デフォルトのデータベース名は PLUM です。

Oracle 10g データベースの場合、PLUM の代わりに PLUM10 を使用します。

3. **initPLUM.ora** (または **initPLUM10.ora**) ファイルを Oracle のデータベース ディレクトリである %ORACLE_BASE%\database にコピーします。

ポータル インストーラによってダウンロードされたときのファイル名は **initPLUM.ora** (または **initPLUM10.ora**) ですが、データベースのデフォルト名を変更した場合は、そのデータベース名に一致するようにファイル名を変更しておく必要があります。

4. 次のコマンドを入力して **CreateService.bat** バッチ ファイルを実行します。

```
CreateService PLUM (9i の場合)
CreateService PLUM10 (10g の場合)
```

このコマンドを実行すると、データベース用の Windows サービスが作成され、**CreateService** の後に指定したデータベース名が ORACLE_SID 環境変数に設定されます。

5. 次のコマンドを入力してデータベースのデータ ディレクトリを作成します。

Oracle 9i の場合：

```
mkdir %ORACLE_BASE%\%database%\PLUM
```

Oracle 10g の場合：

```
mkdir %ORACLE_BASE%\%database%\PLUM10
```

6. データベースを再構築する場合、またはデータベースの構築に失敗し再試行する場合は、次のコマンドを実行して %ORACLE_BASE%\%database%\PLUM のファイルを削除します。

Oracle 9i の場合：

```
del %ORACLE_BASE%\%database%\PLUM\*.*
```

Oracle 10g の場合：

```
del %ORACLE_BASE%\%database%\PLUM10\*.*
```

7. 以下に、ポータルの専用データベースを作成する手順を示します。既存のデータベース内にテーブルスペースを作成する方法については、[付録 E 「Oracle データベース内にテーブルスペースとスキーマを作成する方法」](#)を参照してください。

プラムツリーの専用データベースを作成するには次を行います。

- a. 次のようにコマンドを入力して Oracle のスクリプトが格納されているフォルダに移動し、SQLplus を起動し、**crdb1_oracle_nt.sql** スクリプトを実行します (Oracle 10g データベースをご使用の場合は、PLUM を PLUM10 で置き換えてください)。

```
> cd %ORACLE_BASE%\admin\%PLUM%\plumtreescripts
> %ORACLE_HOME%\bin\sqlplus /nolog
(プロンプトが SQL> に変わります)
SQL> @crdb1_oracle_nt.sql
```

スクリプトの実行が成功すると、一連のメッセージが出力され、最後に次のメッセージが表示されます。

```
Statement processed with no errors
```

スクリプトが完了した後、以下のデータ ファイルが作成されていることを確認してください。

- systPLUM.dbf
- undo1A.dbf
- temp1A.dbf (単一ディスクのインストール環境のみ)

スクリプトの出力は、**crdb1.LST** ファイルに保存されます。

この時点で、データベースが起動されているはずです。

- b. データベースが稼働している状態で、SQLplus から **crdb2_oracle_nt.sql** を実行します。

このスクリプトによって、ポータルで使用されるテーブルスペースとデータベース ユーザーが作成され、またデータベースのインストールを完了するために必要な内部 Oracle スクリプトが

実行されます。ご使用のホスト コンピュータ システムの処理速度によっては、このスクリプトの実行に 1 時間程度かかる場合があります。

画面に一連のメッセージが表示されます。以下のようなエラー メッセージは無視できます。

```
ORA-00942 table or view does not exist
```

```
ORA-1432/ORA-1434 public synonym to be dropped does not exist.
```

スクリプトが完了した後、以下のファイルが作成されていることを確認してください。

- plumdata1.dbf
- plumidx1.dbf
- plumtmp1.dbf

スクリプトの出力は、**crdb2.LST** ファイルに保存されます。

8. 最後に、ポータルのテーブル、プロシージャ、および初期データを作成するために、プラムツリー ユーザーとしてデータベースに接続し、ポータル データベース ユーザーとして **init_plumtree_db_oracle.sql** スクリプトを実行します。

init_plumtree_db_oracle.sql を *sys* または *system user* として実行しないでください。必ずポータル データベース ユーザーとして次のように実行する必要があります。

```
sqlplus PortalDB_user/password
(プロンプトが SQL> に変わります)
SQL> @init_plumtree_db_oracle.sql
```

以下のスクリプトが起動され、必要なテーブル、プロシージャ、および初期データが作成されます。

- create_tables_oracle.sql
- stored_procs_oracle.sql
- load_seed_info_oracle.sql
- postinst_oracle.sql

これらのスクリプトの出力は、スクリプト ディレクトリ内の以下のファイルに保存されます。

- create_tables.LST
- stored_procs_oracle.LST
- load_seed_info.LST
- postinst.LST

9. **sqlplus** を終了します。
10. データベース用の Oracle Listener を起動します。

Plumtree Image Service のインストールと導入

Plumtree Image Service コンポーネントをプラムツリー管理ポータルと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、Plumtree Image Service コンポーネントをほかのホスト コンピュータにイ

インストールしてください。インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

Plumtree Image Service をインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

Plumtree Image Service をウェブ サーバーに導入するには次を行います。

アプリケーション サーバー	Plumtree Image Service の導入方法
Tomcat、WebLogic、WebSphere	Java 版のポータルの場合、Apache の導入に関するインストーラのページに指定した値に基づいて、インストーラによって、Plumtree Image Service が Apache に自動導入されます。
IIS	.NET 版のポータルの場合、Plumtree Image Service は、インストーラによって、インストール時に指定した IIS ウェブサーバーに導入されます。

Apache 用の Windows サービスを自動起動に設定するには、次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。
2. **Apache** のサービスを見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Apache** サービスを右クリックし、[**開始**] を選択します。

Plumtree Image Service を *手動* で Apache ウェブ サーバーに導入するには、次を行います。

1. **C:/Program Files/plumtree/plumtreeconf/** というディレクトリを作成します。
2. このディレクトリ内に、次の内容を記述した **imageserver.conf** ファイルを作成します。

```
Alias /imageserver/ "C:/Program Files/plumtree/ptimages/imageserver/"
<Directory "C:/Program Files/plumtree/ptimages/imageserver">
    AllowOverride None
    Options Indexes FollowSymlinks MultiViews
    order allow,deny
    allow from all
</Directory>
```

3. <ApacheServerInstall>\conf\httpd.conf ファイルに次の行を追加します。

```
Include "C:/Program Files/plumtree/plumtreeconf/"
```
4. ウェブ サーバーを再起動します。

Plumtree Search のインストールと起動

Plumtree Search コンポーネントを、プラムツリー管理ポータルまたは Plumtree Image Service のコンポーネントと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、Plumtree Search コンポーネントをほかのホスト コンピュータにインストールしてください。インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

Windows における Plumtree Search のインストール

Windows で、Plumtree Search をインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

Plumtree Search 用の Windows サービスの起動

Plumtree Search は、インストーラによって、手動起動が必要な Windows サービスとして登録されます。

Plumtree Search を自動起動に設定するには次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。

2. **Plumtree Search** のサービスを見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Plumtree Search** のサービスを右クリックし、[**開始**] を選択します。

Plumtree Automation Service のインストールと起動

Plumtree Automation Service コンポーネントを、プラムツリー管理ポータル、Plumtree Image Service、または Plumtree Search のコンポーネントと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、Plumtree Automation Service コンポーネントをほかのホスト コンピュータにインストールしてください。インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

Plumtree Automation Service をインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

Plumtree Automation Service は、インストーラによって、手動起動が必要な Windows サービスとして登録されます。

Plumtree Automation Service を自動起動に設定するには次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。
2. **Plumtree Automation Service** を見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Plumtree Automation Service** を右クリックし、[**開始**] を選択します。

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスのインストールと起動

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス コンポーネントを、プラムツリー管理ポータル、Plumtree Image Service、Plumtree Search、または Plumtree Automation Service のコンポーネントと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス コンポーネントをほかのホスト コンピュータにインストールしてください。インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスをインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスは、インストーラによって、手動起動が必要な Windows サービスとして登録されます。

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスを自動起動に設定するには次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。
2. **Plumtree Document Repository Service** を見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Plumtree Document Repository Service** を右クリックし、[**開始**] を選択します。

ドキュメント リポジトリ サービスのトラブルシューティング

ポートの重複によるエラー、ポートの使用中的によるエラー、または BindException エラー

ドキュメント リポジトリ サービスをインストールすると、ポートの重複によるエラー、ポートの使用中的によるエラー、または BindException エラーが発生する場合があります。この問題を解決するには、<PT_HOME>settings/config/application.xml で HTTP と HTTPS のポート番号を設定する必要があります。**application.xml** ファイル内の HTTP と HTTPS の設定を編集し、値を使用可能なポート番号に設定する必要があります。

この設定ファイルへの変更を有効にするには、ドキュメント リポジトリ サービスを再起動する必要があります。サービスのポート番号を変更した場合は、そのポートを参照しているすべてのウェブ サービスやリモート サーバーの設定でポート番号を変更する必要があります。

メモリーの消費またはメモリー不足によるエラー

ドキュメント リポジトリ サービスをインストールすると、メモリーの消費またはメモリー不足によってエラーが発生することがあります。この問題を解決するには、ドキュメント リポジトリ サービスの JVM で使用可能な最大メモリー量をメガバイト単位で設定します。これは、<PT_HOME>settings/config/wrapper.conf ファイルの **wrapper.java.maxmemory** プロパティで設定することができます。例えば、次のように wrapper.conf ファイルの行を編集することによって、最大メモリー量を 1 GB に設定することができます。

```
wrapper.java.maxmemory=1024
```

この設定は、Java の実行ファイルによって使用される -Xmx パラメータに直接対応しています。ほとんどの構成では、設定ファイルのデフォルト設定を変更する必要はありません。大規模な運用環境では、特にドキュメント リポジトリ サービスが専用のホスト マシンにインストールされている場合、この値をなるべく高く設定する必要がありますが（例：1024 または 1536）、必ずホストマシンの物理 RAM より低い値でなければなりません。

プラムツリー API サービスのインストール

プラムツリー API サービス コンポーネントを、上記のいずれかのコンポーネントと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、ほかのホスト コンピュータにインストールしてください。

インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

プラムツリー API サービスをインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

プラムツリー API サービスは、インストーラによって、手動起動が必要な Windows サービスとして登録されます。

プラムツリー API サービスを自動起動に設定するには次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。
2. **Plumtree API Service** を見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Plumtree API Service** を右クリックし、[**開始**] を選択します。

プラムツリー コンテンツ アップロード サービスのインストール

プラムツリー コンテンツ アップロード サービスは、プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスにファイルをアップロードし、ナレッジ ディレクトリを通してこれらのファイルが利用できるようにします。これによって、内部のファイル ネットワークへのアクセス権を持っていないポータル ユーザー（例えば、エキストラネット ユーザー）が、ポータル ナレッジ ディレクトリにファイルを提出できるようになります。

プラムツリー コンテンツ アップロード サービスは、インストーラによって、手動起動が必要な Windows サービスとして登録されます。

プラムツリー コンテンツ アップロード サービスを自動起動に設定するには次を行います。

1. [**スタート | プログラム | 管理ツール | サービス**] をクリックします。
2. **Plumtree Content Upload Service** を見つけて、このサービスを右クリックします。
3. [**プロパティ**] を選択します。
4. [スタートアップの種類] を [**自動**] に変更します。
5. [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
6. **Plumtree Content Upload Service** を右クリックし、[**開始**] を選択します。

プラムツリー コンテンツ アップロード サービスをインストールした後で、ポータルにインポートする必要があります。プラムツリー コンテンツ アップロード サービスの移行パッケージをポータルにインポートする方法については、『*Plumtree Foundation 管理者用ガイド*』を参照してください。

コンテンツ アップロード サービスのトラブルシューティング

ポートの重複によるエラー、ポートの使用中的によるエラー、または BindException エラー

コンテンツ アップロード サービスをインストールすると、ポートの重複によるエラー、ポートの使用中的によるエラー、または BindException エラーが発生する場合があります。この問題を解決するには、<PT_HOME>settings/config/application.xml で HTTP と HTTPS のポート番号を設定する必要があります。**application.xml** ファイル内の HTTP と HTTPS の設定を編集し、値を使用可能なポート番号に設定する必要があります。

この設定ファイルへの変更を有効にするには、コンテンツ アップロード サービスを再起動する必要があります。サービスのポート番号を変更した場合は、そのポートを参照しているすべてのウェブ サービスやリモート サーバーの設定でポート番号を変更する必要があります。

メモリーの消費またはメモリー不足によるエラー

コンテンツ アップロード サービスをインストールすると、メモリーの消費またはメモリー不足によってエラーが発生することがあります。この問題を解決するには、コンテンツ アップロード サービスの JVM で使用可能な最大メモリー量をメガバイト単位で設定します。これは、<PT_HOME>settings/config/wrapper.conf ファイルの **wrapper.java.maxmemory** プロパティで設定することができます。例えば、次のように wrapper.conf ファイルの行を編集することによって、最大メモリー量を 1 GB に設定することができます。

```
wrapper.java.maxmemory=1024
```

この設定は、Java の実行ファイルによって使用される -Xmx パラメータに直接対応しています。ほとんどの構成では、設定ファイルのデフォルト設定を変更する必要はありません。大規模な運用環境では、特にコンテンツ アップロード サービスが専用のホスト マシンにインストールされている場合、この値をなるべく高く設定する必要がありますが（例：1024 または 1536）、必ずホストマシンの物理 RAM よりは低い値でなければなりません。

プラムツリー ポータルのインストール

プラムツリー ポータルを上記のいずれかのコンポーネントと同じホスト コンピュータにインストールしなかった場合は、ほかのホスト コンピュータにインストールしてください。インストールを行う際に、残りのコンポーネントも同じホスト コンピュータにインストールすることができます。

プラムツリー ポータルをインストールするには、[「プラムツリー コンポーネントのインストール」、4-1 ページ](#) の手順に従ってください。

Diagnostic Tool

Diagnostic Tool は、ポータルを起動する前に実行するコマンドライン アプリケーションです。このツールを実行すると、ポータルのスタートアップの基本機能がテストされ、警告の一覧とそれらのエラーを

解決するためのガイドラインが表示されます。Diagnostic Tool (**diagnostic.exe**) は、次のディレクトリにインストールされています。

<PT_HOME>\ptportal\6.0\bin\diagnostic.exe

ポータルを起動する前に、コマンドラインから Diagnostic Tool を実行して警告を参照し、ガイドラインに従ってエラーを解決してください。

ポータル サービスの起動

すべてのコンポーネントをインストールした後でポータルを起動するには次を行います。

- ポータル データベースを設定して起動します。
- アプリケーション サーバーが起動しており、ポータル用に設定されていることを確認します ([「ウェブ アプリケーション サーバーの設定」](#)、[D-1 ページ](#)を参照)。
- Plumtree Image Service が稼動しており、プラムツリー ポータルから利用可能な状態であることを確認した上でポータルを起動します。
- Plumtree Automation Service、プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス、と Plumtree Search を起動します。

これら 3 つのサービスは、ポータルのインストーラによって、Windows のコントロール パネルから起動する手動 Windows サービスとして登録されています。

インストールの確認

この節では、ポータルのコンポーネントが正しくインストールされたことを確認する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「接続のテスト」](#)
- [「ログの分析」、4-32 ページ](#)

接続のテスト

依存するコンポーネントをインストールし、起動した後で、コンポーネントの接続をテストすることができます。以下の表に、インストールが正しく実行されたことを確認するための手順の要約を示します。

表 4-1:

コンポーネントのテスト	手順
Plumtree Image Service、 プラムツリー管理ポータル、 プラムツリー ポータル、 ポータル データベース	<p>次のように、ポータルのユーザー インタフェースが正しく表示されることを確認することによって、インストール済みのコンポーネントをテストします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブラウザで、次のサイトを開きます。 <code>http://admin_portal_server_host:port/portal/server.pt</code> • ユーザー名 Administrator、パスワードなしでログインします。（ポータルを最初にインストールした際は、これがデフォルトのログインになります。） <p>アイコンを含めてログイン ページが正しく表示され、ログインができ、デフォルトのマイ ページが表示された場合は、プラムツリー管理ポータルがウェブ アプリケーション サーバー上で正常に稼動しており、データベースと通信することが可能であり、ブラウザが Image Service からイメージを受信できていることを示しています。</p>
Plumtree Search	<p>Plumtree Search のホスト コンピュータで、コントロール パネルの [サービス] を開いて、Plumtree Search サービスを起動できることを確認してください。</p> <p>または、Administrator としてポータルにログインし、[管理] タブをクリックして、[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから [Search Service マネージャ] ユーティリティを選択します。このユーティリティで、[進行状況の表示] ボタンをクリックすると、成功したというメッセージが表示されるはずです。</p>

表 4-1:

コンポーネントのテスト	手順
Plumtree Automation Service	<p>Plumtree Automation Service のホスト コンピュータで、コントロール パネルの [サービス] を開いて、Plumtree Automation Service を起動できることを確認してください。</p> <p>または、Administrator としてポータルにログインし、[管理] タブをクリックして、[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから [Automation Service] ユーティリティを選択します。インストール時に指定した Plumtree Automation Service が表示されるはずです。また、状態は、[オンライン] になっているはずです。</p>
プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス	<p>プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスをテストするには、(コミュニティのブランド機能に必要な) コンテンツ サーバーをインストールし、診断用の Tests.jsp を実行します。</p>

表 4-1:

コンポーネントのテスト	手順
プラムツリー API サービス	<p>プラムツリー API サービスをテストするには、次の手順に従ってネットワーク検索を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Administrator としてポータルにログインします。デフォルトのパスワードは空白です。 • 表示されたマイ ページで [管理] タブをクリックし、管理オブジェクト ディレクトリに移動して、任意のフォルダを開きます。 • 開いたフォルダ内の [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[ウェブサービス - 検索] を選択します。[ウェブ サービスの作成] ページが表示されます。 • [検索ウェブ サービスの設定] で、[検索 URL] を次のように設定します。 http://wssserver.mydomain.com:11905/ptapi/services/ PTSearchServiceSoap • [オブジェクト設定の編集] で、[詳細設定] をクリックします。[ウェブ サービスの作成の詳細設定] ページが表示されます。 • [SOAP エンコード形式] で、[ドキュメント / リテラル] を選択し、[終了] をクリックします。[オブジェクトの保存] ページが表示されます。 • 作成した検索の名前と説明を入力し、検索を保存するフォルダを選択し、[保存] をクリックします。[オブジェクトの保存完了] ページが表示されます。 • [新規送信ネットワーク検索の作成] をクリックします。[送信ネットワーク検索の作成] ページが表示されます。 • [オブジェクト設定の編集] で、[ポータル間の設定] をクリックします。[送信ネットワーク検索の作成、ポータル間の設定] ページが表示されます。 • [ポータル認証の設定] で、[はい] を選択し、ポータル識別の名前に guest と入力し、ポータル識別パスワードは入力せずに [終了] をクリックします。[オブジェクトの保存] ページが表示されます。 • 作成したネットワーク検索の名前と説明を入力し、ネットワーク検索を保存するフォルダを選択して、[保存] をクリックします。 • ページの右上の端にある [ネットワーク検索] アイコンをクリックします ([詳細検索] ではないことに注意)。[検索設定] ページが表示されます。 • 作成したネットワーク検索の横のチェックボックスをチェックして、[テキスト検索] ボックスに検索するテキストを入力し、[検索] をクリックします。 <p>プラムツリー API サービスが正しくインストールされている場合、エラー メッセージ無しで検索の結果が表示されます。</p>

ログの分析

コンポーネントのインストール後に、ログ ファイルを参照してエラーや警告を確認することができます。以下の表では、ポータルをインストールした際に作成されるログについて説明します。



注意：下記のほかのログで検出されたすべてのエラーは、Plumtree_Foundation_InstallLog.log にも報告されます。

ログ ファイル	備考
ポータルのインストール ディレクトリの直下に作成されるログ	
Plumtree_Foundation_InstallLog.log	ポータル サーバーまたはプラムツリー管理ポータルをインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptdr_deployment.log	プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービスをインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptimages_deployment.log	Plumtree Image Service をインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptportal_deployment.log	ポータル サーバー、プラムツリー管理ポータル、または Plumtree Automation Service をインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptsearchserver_deployment.log	Plumtree Search をインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptlogger_deployment.log	Plumtree Logging Utilities をインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptws_deployment.log	プラムツリー API サービスをインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
portalappserver_deployment.log	Plumtree Image Service、プラムツリー管理ポータル、およびポータル サーバーを Windows に自動導入する際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。
ptupload_deployment.log	プラムツリー コンテンツ アップロード サービスをインストールする際に、個々のインストール操作が成功したか失敗したかがこのログに記録されます。

ポータルのログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法

ポータルのログ機能を使用するには、**serverconfig.xml** ファイルの OpenLog セクションを設定します。**serverconfig.xml** ファイルは、/plumtree/settings/common ディレクトリに格納されています。

以下では、このセクションの記述例を示し、セクション内の個々のノードについて説明します。

```
<setting name="logging:server-name">
<value xsi:type="xsd:string">portal.Foo-win2k.BarryF</value>
</setting>
<setting name="logging:local-only">
<value xsi:type="xsd:boolean">>false</value>
</setting>
```

<setting name="logging:server-name"> ノード

このノードの特徴は次の通りです。

- ポータルのロギング名を定義することによって、ロギング フレームワークを使用するほかのすべてのプラムツリー アプリケーションから区別します。

ポータルのロギング名は、インストール時に、インストーラによって次のように設定されます。

```
portal.[machine-name].[user-name]
```

このデフォルト値の、*machine-name* は、ポータルがインストールされているマシンの名前で、*user-name* は、インストーラを実行したユーザーの名前です。

<setting name="logging:server-name"> ノードに文字列を設定することによって、デフォルトのポータルロギング名を上書きすることができます。ただし、設定する文字列は次の条件を満たしている必要があります。

- ロギング名には、表示可能な ASCII 文字と空白文字のみを含めることができます。タブや復帰改行文字などの文字を含めることはできません。また、スラッシュ (/) も含めることができません。
- ロギング名は、128 文字以下である必要があります。

<setting name="logging:local-only"> ノード

<setting name="logging:local-only"> XML ノードは、ポータルのログ メッセージをリモートから参照するための機能を有効または無効にします。この値が *false* に設定されている場合、ネットワーク上のほかのマシンで実行している Plumtree Logging Spy のインスタンスにおいて、ポータルのログ メッセージを受信することができます。この値が *true* に設定されている場合、ポータルがインストールされているマシン上で実行している Plumtree Logging Spy のインスタンスのみにおいて、ポータルのログ メッセージを受信することができます。デフォルトでは、*true* に設定されています。

ポータルのログ メッセージをリモートから参照できるようにするには、ポータルがインストールされているマシンと Plumtree Logging Spy がインストールされているマシンの間で、UDP マルチキャストメッセージを送受信できるようにネットワークを設定する必要があります。詳細については、貴社のネットワーク管理者にお問い合わせください。

Plumtree Logging Spy

Plumtree Logging Spy（以前のバージョンでは PTSpy）は、Plumtree Logging Utilities のメインのログ メッセージ受信機能です。Plumtree Logging Spy は、ポータルやほかのログ メッセージ送信者（Plumtree Collaboration や Plumtree Publisher など）からログ メッセージを受信し、それらをグラフィカル ユーザー インタフェースで表示します。

Plumtree Logging Spy を起動するには、[**スタート** | **すべてのプログラム** | **Plumtree** | **PT Logging Utilities** | **Logging Spy**] を選択します。Plumtree Logging Spy の使用方法に関する詳細については、Plumtree Logging Spy に付属しているオンライン ヘルプか『*Plumtree Foundation 6.0 管理者用ガイド*』を参照してください。

5

Foundation 6.0 へのアップグレード方法

以下の表に、サポートされている Plumtree Foundation データベースのアップグレード パスを示します。

アップグレード パス	アップグレードに関する資料
6.0 から 6.0 SP1 (Windows)	この章の手順に従ってください。
5.0.2、5.0.3、5.0.4 (Windows) から 6.0 (Windows)	この章の手順に従ってください。

この節では以下の項目について説明します。

- [「Foundation 6.0 へのアップグレード方法」](#)
- [「Foundation 6.0 から Foundation 6.0 SP1 へのアップグレード」](#)

Foundation 6.0 へのアップグレード方法

この節では、Foundation 5.0.2、Foundation 5.0.3、または Foundation 5.0.4 から Foundation 6.0 にアップグレードする方法について説明します。

準備手順

データベースのアップグレードを実施する前に、次の基本手順を行う必要があります。

1. 製品のリリース ノートをお読みにになり、6.0、5.0.4、5.0.3、および 5.0.2 の各リリースで追加された機能や変更された機能の概要を確認してください。
2. インストールの準備手順が済んでいることを確認してください。詳細については、[第3章「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
3. ウェブ アプリケーション サーバーがポータルへの導入に適合するように正しく設定されていることを確認してください。詳細については、[付録 D 「ウェブ アプリケーション サーバーの設定」](#)を参照してください。
4. バージョン 6.0 のポータル インストーラを実行してください。詳細については、[「ポータル コンポーネントのインストール」](#)、[4-1 ページ](#)を参照してください。

Plumtree Database Upgrade Tool

Plumtree Database Upgrade Tool を使用して、バージョン 5.0.2、5.0.3、または 5.0.4 のデータベースをバージョン 6.0 の仕様にアップグレードすることができます。

アップグレードするための必要条件

Plumtree Database Upgrade Tool を実行する前に次を行う必要があります。

- ポータル データベースが Oracle データベース サーバーに導入されている場合は、[「ソフトウェアの必要条件」](#)の表に記載されているサポート対象の Oracle バージョンに、Oracle データベースを移行する必要があります。この手順は、複雑で時間がかかる場合があります。下記のアップグレード手順を開始する数日または数週間前に上記の手順を実施するように、貴社の DBA に依頼してください。



注意：Oracle 9i または Oracle 10g にアップグレードする場合、新しいデータベースの文字セットが UTF8 であり、新しいデータベースの各国文字セットが AL16UTF16 であることを確認してください。プラムツリー 6.0 を使用するには、Oracle データベースの文字セットが UTF8 であり、各国文字セットが AL16UTF16 である必要があります。

- ポータル データベースが SQL Server データベース サーバーに導入されている場合は、データベースを Microsoft SQL Server 2000 SP3 にアップグレードしてください。この手順は、複雑で時間がかかる場合があります。下記のアップグレード手順を開始する数日または数週間前に上記の手順を実施するように、貴社の DBA に依頼してください。
- ポータル バージョン 6.0 のプラムツリー管理ポータルをインストールします。

ドキュメント名の重複を解決するスクリプト

Plumtree Foundation 6.0 に構成されている Oracle データベースでは、プラムツリーのオブジェクト名の大文字と小文字は区別されません。つまり、データベースにおいて、活字体のみが異なるオブジェクト名は使用できなくなりました。Plumtree Database Upgrade Tool では、重複しているオブジェクト名がすべて検出されます。重複しているドキュメント（またはその他の重複しているオブジェクト名）がデータベースに含まれていることが Plumtree Database Upgrade Tool によって検出された場合、データベースのアップグレードを進める前にこれらの重複オブジェクトの名前を変更あるいは削除する必要があります。

プラムツリーは、Database Upgrade Tool を実行する前に実行できる 2 つのスクリプトを提供しています。これらのスクリプトの実行は必須ではありません。また、これらのスクリプトは Oracle データベースのみに対応しており、ナレッジディレクトリ内のドキュメント名の重複のみを解決することができます。その他のプラムツリー オブジェクトの名前の重複は解決されませんので注意してください。これらのスクリプトは、C:\Program Files\plumtree\ptportal\6.0\sql に格納されています。

- find_dup_doc_names_oracle.sql:** このスクリプトを実行すると、データベース内の重複しているドキュメント名が検出され、重複しているドキュメントの名前に「(dup x)」という文字列（「x」は重複ドキュメントの番号）を付加することによって新しい名前が作成されます。新しいドキュメント名は、新しいテーブル（PTCARDS_NEWNAMES）に保存され、元の PTCARDS テーブルは変更されません。このスクリプトでは、最大 5 つのドキュメント名の重複を処理することができます。
- fix_dup_doc_names_oracle.sql:** このスクリプトを実行すると、PTCARDS テーブル内の重複ドキュメント名が PTCARDS_NEWNAMES テーブルに保存されている新しいカード名で上書きされます。その後で、PTCARDS_NEWNAMES テーブルは削除されます。このスクリプトを実行する前に **find_dup_doc_names_oracle.sql** を実行する必要があります。

.NET 版の Plumtree Database Upgrade Tool の実行

- バージョン 6.0 のプラムツリー管理ポータルをインストールしたマシンで、Plumtree Database Upgrade Tool (dbupgradetool.bat) を開きます。このファイルは、次のデフォルトのディレクトリ、またはポータルのインストール時に指定したディレクトリに格納されています。
C:\Program Files\plumtree\ptportal\6.0\bin\
 - .NET 版のポータルを導入している場合、dbupgradetool.bat を開くと、Database Upgrade Tool の GUI 版が起動されます。下記の手順 2 に進みます。
 - Java 版のポータルを導入している場合、dbupgradetool.bat を開くと、Database Upgrade Tool の コマンドライン版が起動されます。Java 版の Plumtree Database Upgrade Tool の使用手順については、[「Java 版の Plumtree Database Upgrade Tool の実行」、5-4 ページ](#) を参照してください。
- [Admin User Name]** ボックスに、5.0.x の管理者ユーザーの名前（管理者グループのほかのユーザーは使用できません）を入力します。デフォルトの名前は、「Administrator」ですが、インストール後、セキュリティのために名前を変更した場合は、その名前を指定します。
- [Password]** ボックスに、管理者ユーザーのパスワードを入力します。
- [Error Log File]** ボックスに、Plumtree Database Upgrade Tool によって検出されたエラーを記録するためのファイルを作成する場所とファイル名を入力するか、または [...] をクリックして既存のファイルを参照し選択します。
- データベースのアップグレードに使用された SQL 文をファイルに記録するように Plumtree Database Upgrade Tool を設定するには、**[Create SQL Script]** ボックスをチェックします。このファイルを使用することによって、Plumtree Database Upgrade Tool を実行せずに同じデータベースをアップグレードすることができます。ただし、SQL はデータに固有のものであるので、作成されたスクリプトは、SQL が生成された元のデータベースの完全な複製であるデータベース以外では実行しないでください。



注意：SQL スクリプトの生成の有無に関わらず、Plumtree Database Upgrade Tool によってデータは変更されます。

SQL スクリプトを作成するように設定した場合は、SQL が書き込まれるファイルを指定する必要があります。作成するファイルの場所と名前を入力するか、[...] をクリックして既存のファイルを選択してください。

- [Connect]** をクリックします。Plumtree Database Upgrade Tool はポータル データベースに接続し、ポータルに含まれているオブジェクトのタイプに基づいてアップグレードに必要な追加パラメータを決定します。
- 追加パラメータに対する値を指定します。以前に、Plumtree Database Upgrade Tool を通してパラメータの値を保存した場合は、**[Load Settings]** をクリックします。ファイルの場所と名前を指定すると、そのファイルに保存されている値がパラメータに設定されます。

[Do you want to clear the status of any currently indexed items]（現在インデックスされている項目の状態を削除しますか）というメッセージが表示されます。[Y]（はい）を指定した場合、Plumtree Search によってインデックス データが破棄され、アップグレード後、検索更新エージェントを実行した際に、すべてのインデックスが再構築されます。アップグレードのテストでは、このオプションを [N]（いいえ）に設定できますが、最終的な運用システムへのアップグレードではこれを [Y] に設定する必要があります。

8. 手順 7 で入力したパラメータを後で再利用するためにファイルに保存する場合は、**[Store Settings]** をクリックします。プロンプトが表示されたら、ファイルの保存場所と名前を入力します。
9. データベースのアップグレードを開始するには、**[Upgrade]** をクリックします。データベースの容量によって、アップグレードは数秒から数時間かかることがあります。エラーまたは不整合データが検出された場合においても、Plumtree Database Upgrade Tool は停止しません。代わりに、手順 4 で指定したファイルにエラーが記録されます。



注意：ユーザー インタフェースは反応しなくなります。アップグレードが正常に実行されていることを確認するには、Plumtree Logging Spy のログを参照してください。ただし、アップグレード中は、データベースに対して複雑なクエリが発行されることもあるので、Plumtree Logging Spy のログに長い時間何も表示されないことがあります。

10. データベースのアップグレードが完了すると、状態が通知されます。
11. エラーがあった場合は、ログ ファイルを参照し、解決策を特定します。データベースを以前の状態に復元して、問題を解決し、Plumtree Database Upgrade Tool を再度実行します。



注意：Plumtree Database Upgrade Tool を再度実行する前に、データベースを 5.0.x の元の状態に復元する必要があります。Plumtree Database Upgrade Tool は、すべてのエラーを検出するためにデータベースを変更します。したがって、アップグレードが成功しなかった場合でも、データベースは少なくとも部分的には 6.0 にアップグレードされています。

11. [「データのエクスポートと再インポート」、5-6 ページ](#)、[「ストアド プロシージャの読み込み」、5-7 ページ](#)、および [「システム固有のパラメータの更新」、5-8 ページ](#) の手順に進みます。

Java 版の Plumtree Database Upgrade Tool の実行

Java 版のポータル データベースをバージョン 6.0 の仕様にアップグレードするには、コマンドライン版の Plumtree Database Upgrade Tool を使用します。

正しくアップグレードを実施するには、まず（各種ファイルの格納場所といった）アップグレードに必要なデータを設定する必要があります。このデータは、テキスト ファイルを使用して設定します。使用するテキスト ファイルは、**upgradedata.properties** ファイルで、次のディレクトリにあります。

```
$PT_HOME/settings/portal/upgradedata.properties
```

Plumtree Database Upgrade Tool を最初に実行したときに、必要なデータの説明が記載されている upgradedata.properties テキスト ファイルが作成されます。upgradedata.properties ファイルを編集するには、テキスト エディタを使用します。必要なすべてのパラメータをファイルに設定した後、再度 Plumtree Database Upgrade Tool を実行します。Plumtree Database Upgrade Tool によって upgradedata.properties ファイルのパラメータが読み込まれ、アップグレードが実行されます。



注意：プラムツリーの設定に基づいてデータベースへの接続などの操作が行われるので、このアプリケーションを使用するには、ご使用のシステムがプラムツリー製品を実行できるように正しく設定されている必要があります。

1. 次のパスにある Plumtree Database Upgrade Tool を実行します。

```
$PT_HOME/plumtree/ptportal/6.0/bin/dbupgradetool.bat
```

- このスクリプトでは、Admin User Name と Password の 2 つのパラメータを指定する必要があります。

- [Admin User Name]: インストール時に作成した 5.x の管理者ユーザーの名前（管理者グループのほかのユーザーは使用できません）を入力します。デフォルトの名前は、「Administrator」ですが、インストール後、セキュリティのために名前を変更した場合は、その名前を指定します。



注意: Admin User Name の大文字と小文字は区別されます。

- Password: 上記の管理者ユーザーのパスワードを入力します。パスワードがない場合は、空白のままにします。
- upgradedata.properties ファイルに値を設定します。すべてのパラメータが表示されるわけではありません。ポータルに含まれているオブジェクトのタイプに関連するパラメータのみ表示されます。



注意: ファイルのパスは、/directory/subdir/filename.xxx のようなフォーマットで指定する必要があります。パスの最後にスペースを含めたり、パス名の前後に引用符を付けたりしないでください。例えば、次のように指定する必要があります。

File_Path = /opt/plumtree/ptedir/yourfilename.pte

- LOG_FILE_PATH: アップグレード時に作成するログ ファイルへのパスを入力します。アップグレードの進行状況の情報がこのファイルに書き込まれます。
- SQL_FILE_PATH: アップグレード時に作成する SQL ファイルへのパスを入力します。アップグレードで実行された操作に一致する SQL スクリプトがこのファイルに書き込まれます。このパラメータは必須ではありません。SQL ファイルを生成しない場合は、空白のままにします。



注意: SQL スクリプトの生成の有無に関わらず、Plumtree Database Upgrade Tool によってデータは変更されます。

- Plumtree Database Upgrade Tool を再度実行し、データベースのアップグレードを開始します。データベースの容量によって、アップグレードは数秒から数時間かかることがあります。エラーまたは不整合データが検出された場合においても、Plumtree Database Upgrade Tool は停止しません。代わりに、手順 3 で指定したファイルにエラーが記録されます。
- データベースのアップグレードが完了すると、状態が通知されます。アップグレードが成功した場合（エラー無しで終了した場合）は、手順 7 に進みます。
- エラーがあった場合は、ログ ファイルを参照し、解決策を特定します。データベースを以前の状態に復元して、問題を解決し、Plumtree Database Upgrade Tool を再度実行します。



注意: Plumtree Database Upgrade Tool を再度実行する前に、データベースを 5.0.x の元の状態に復元する必要があります。Plumtree Database Upgrade Tool は、すべてのエラーを検出するためにデータベースを変更します。したがって、アップグレードが成功しなかった場合でも、データベースは少なくとも部分的には 6.0 にアップグレードされています。

- データベースの認証情報を変更した場合は、プラムツリー データベース ユーザーを使用するように設定を戻します。
- 以下の「[データのエクスポートと再インポート](#)」、5-6 ページ、「[ストアド プロシージャの読み込み](#)」、5-7 ページ、および「[システム固有のパラメータの更新](#)」、5-8 ページ の手順に進みます。

データのエクスポートと再インポート

データベースをアップグレードした後、データベースのデータをエクスポートし、新規に作成されたテーブルにインポートし直す必要があります。これを行うには、データベースのすべてのデータをエクスポートし、プラムツリーのデータベース作成スクリプトを実行してから、データを新しいテーブルにインポートし直します。

Oracle の場合

1. Oracle のエクスポート ユーティリティを使用してデータをエクスポートします。例えば、プラムツリー スキーマの所有者が「plumdbuser」である場合、次を入力します。

```
exp plumdbuser/pass FILE=plumdb.dmp OWNER=plumdbuser GRANTS=y ROWS=y
COMPRESS=y
```



注意：データベースの National Character Set（各国文字セット）が AL16UTF16 であることを確認してください。AL16UTF16 ではない場合は、データベースを変更または再作成する必要があります。

2. プラムツリーのデータベース テーブル作成用 SQL スクリプト **create_tables_oracle.sql** を実行します。このスクリプトはポータル サーバーのインストーラによって生成され、サーバーの PT_HOME¥ptportal¥6.0¥sql¥Oracle サブディレクトリに格納されています。



注意：ポータルのデータベース ユーザーとしてこのスクリプトを実行する必要があります。

3. Oracle のインポート ユーティリティを使用してデータをインポートします。例えば、プラムツリー スキーマの所有者が「plumdbuser」である場合、次を入力します。

```
imp plumdbuser/pass FILE=plumdb.dmp FROMUSER=plumdbuser TOUSER=plumdbuser
IGNORE=y
```

次のようなエラーが表示される場合があります。

```
IMP-00019: row rejected due to ORACLE error 1401
IMP-00003: ORACLE error 1401 encountered
ORA-01401: inserted value too large for column
```

このような場合は、『*Upgrade Guide for Plumtree Foundation 4.5WS to 6.0*』のトラブルシューティングに関する節の ORACLE error 1401 の説明を参照してください。このエラーは、手動で解決する必要があります。

また、インポートを行った際に、次のようなエラーが表示される場合があります。

```
ORA-28667: USING INDEX option not allowed for the primary key of an IOT
```

これらのエラーは無視できます。

SQL Server の場合

プラムツリーのテーブルデータを 1 つの Microsoft SQL Server データベースからエクスポートし、別のデータベースにインポートする最も容易な方法は、Microsoft DTS を使用することです。Microsoft DTS は、SQL Server に付属しており、SQL Enterprise Manager から使用することができます。

アップグレードされたプラムツリー データを新しいスキーマにエクスポートするには次を行います。

1. 新しい変換先データベースを作成します。このデータベースは、新しいポータル データベースとして使用するか、またはこのエクスポート / インポートプロセスのみで使用する一時データベースとして使用することができます。
2. **create_tables_mssql.sql** スクリプトを実行して、データベース内に新しいプラムツリー データベース スキーマを作成します。テーブルは空である必要があるので、ほかのスクリプトは実行しないでください。
3. SQL Enterprise Manager で変換元データベースを右クリックし、[**すべてのタスク | データのエクスポート**] を選択して、DTS ウィザードを起動します。
4. 変換元データベースと変換先データベースにポータル データベース ユーザーを使用して、適切な接続情報を設定します。接続には、デフォルトの **Microsoft OLE DB Provider for SQL Server** プロバイダを使用します。
5. [**変換元データベースからテーブルとビューをコピー**] を選択し、[**次へ**] をクリックします。
6. すべてのプラムツリー データ テーブルを選択します。（代わりに、[**すべて選択**] を使用してすべてのオブジェクトを選択した後で、ビューの選択を解除することもできます。）
7. 変換元の各テーブルが、変換先の適切な（同じ名前の）既存テーブルにマップされていることを確認します。変換先でテーブルが存在する場合は、これがデフォルトのマッピングです。
8. ([**変換**] という列のボタンをクリックして) 各テーブルに関して、各列が変換先の同じ名前の列にマップされていることと、すべての行が新しいスキーマを作成したユーザーであるテーブル所有者にインポートされることを確認します。これらがデフォルトの設定です。
9. DTS を実行して、ダイアログにエラーが表示されているかどうかを確認します。エラーが無いことを確認してください。

変換元のデータベースを変換先データベースで置き換える場合は、すべてのポータル サーバー、WS サーバー、Collaboration サーバー、ワークフロー サーバー、コンテンツ サーバー、通知サーバー、およびプラムツリー データベースを使用するほかのすべてのサーバーで接続情報を修正する必要があります。

変換先データベースを一時データベースとして使用する場合は、**create_tables_sql.sql** を実行して、永続データベースのテーブルを削除し、新しいスキーマを作成してから、上記のエクスポート / インポートプロセスを再度実行します。

ストアド プロシージャの読み込み

プラムツリーのストアド プロシージャ作成用 SQL スクリプトを実行し、新しいプラムツリーのストアド プロシージャをデータベースに追加してください。このスクリプトは、ポータル サーバーのインストーラによって生成され、サーバーの PT_HOME¥ptportal¥6.0¥sql¥ サブディレクトリに格納されています。

- Oracle を使用している場合は、**stored_procs_oracle.sql** を実行します。
- Microsoft SQL Server を使用している場合は、**stored_procs_mssql.sql** を実行します。

必要な場合は、ストアド プロシージャのスクリプトに対する実行権をプラムツリー データベース ユーザーに設定してください。

システム固有のパラメータの更新

システム固有のポスト インストール SQL スクリプトを実行してください。

- Oracle を使用している場合は、**postinst_oracle.sql** を実行します。
- Microsoft SQL Server を使用している場合は、**postinst_mssql.sql** を実行します。

このスクリプトは、ポータル サーバーのインストーラによって生成され、サーバーの `PT_HOME\ptportal\6.0\sql\` サブディレクトリに格納されています。このスクリプトの中の値は、バージョン 6.0 のポータル サーバーのインストール時に入力したパラメータに基づいています。したがって、今回アップグレードする特定のシステムのインストールのために生成されたスクリプトを使用する必要があります。ほかのシステムからコピーしたスクリプトは使用できません。

このスクリプトを実行すると、アップグレードしたシステムに適合するようにシステム固有のデータベース項目が修正されるので、アップグレードしたデータベースが他のシステムからコピーされたものである場合、この手順は特に重要になります。例えば、コピーされたデータベースは、コピー元のシステムの Plumtree Search を参照するように設定されています。データベースにその参照が含まれたままの状態ではアップグレード済みポータルを実行すると、ポータルが元の Plumtree Search のデータを壊してしまう可能性があります。

データベースをアップグレードした後の手順

1. すべてのポータル サービスを起動します。詳細については、[「ポータル サービスの起動」、4-28 ページ](#)を参照してください。
2. インストール環境を確認します。詳細については、[「インストールの確認」、4-29 ページ](#)を参照してください。
3. 検索修正操作を実行します。Database Upgrade Tool を実行した際に、現在インデックスされている項目の状態を削除するように（デフォルト設定を）選択したかどうかに関わらず、検索の修正を行うことを強くお勧めします。検索修正操作を実行するには次を行います。
 - a. Search Service マネージャ ユーティリティで、[次回の修正日] を設定します。このユーティリティは、ポータルの管理階層からアクセスできます。すぐに修正を行うには、日付を今日の日付に設定し、時間を過去の時間に設定します。
 - b. [適用] をクリックし、[終了] をクリックします。
 - c. 検索更新ジョブを開始します。
4. インストール後の手順を検討して、次に実行する手順を決定してください。詳細については、[第 6 章「インストール後の手順」](#)を参照してください。

Foundation 6.0 から Foundation 6.0 SP1 へのアップグレード

この節では、Foundation 6.0 から Foundation 6.0 SP1 にアップグレードする方法について説明します。

アップグレードの計画を立てる際は、テスト条件、アップタイムの条件、ステージング環境や開発環境との同期などを考慮に入れてください。

Foundation 6.0 から Foundation 6.0 SP1 にアップグレードするには、ポータル ソフトウェアをアップグレードすることに加えて、ポータル データベースに対して `upgrade6.0to6.0.SP1_your_database_type.sql`

データベース スクリプトを実行する必要があります。このデータベース スクリプトは、管理ポータル サーバー をインストールする際にインストールされます。以下にアップグレードの基本手順の概要を示します。

1. 1 台の 管理ポータル サーバー のソフトウェアをバージョン 6.0 SP1 にアップグレードします。
2. ポータル データベースに対して、`upgrade6.0to6.0.SP1_your_database_type.sql` データベース アップグレード スクリプトを実行します。
3. Automation Service、Image Service、ほかの管理ポータル サーバーなど、すべてのコンポーネントをアップグレードします。

必要であれば、手順 2 と 3 の順番を逆にすることができます。この順番に関わらず、データベース スクリプトを実行する前に、1 台の バージョン 6.0 SP1 の管理ポータル サーバー をインストールし、データベース アップグレード スクリプトを入手する必要があります。各管理ポータル サーバー にアップグレード スクリプトが含まれていますが、スクリプトは一度しか実行する必要はありません。

上記の各基本手順には、以下で説明する詳細手順があります。

1. 1 台の 管理ポータル サーバー のソフトウェアをバージョン 6.0 SP1 にアップグレードします。
 - a. マシンのインフラストラクチャがバージョン 6.0 SP1 の仕様を満たしていることを確認します。詳細については、[第 3 章「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
 - b. 管理ポータル サーバー コンポーネントをインストールします。詳細については、[「Plumtree 管理ポータルのインストール」](#)、4-8 ページを参照してください。
2. ポータルデータベース上でデータベース アップグレード スクリプトを実行します。
 - a. ポータル データベースのバックアップを取ります。
 - b. バージョン 6.0 SP1 の管理ポータル サーバーのインストール フォルダにある `upgrade6.0to6.0.SP1_your_database_type.sql` を見つけます。
 - c. このデータベース アップグレード スクリプトを実行します。
3. Automation Service、Image Service、ほかの管理ポータル サーバーなど、すべてのコンポーネントをアップグレードします。
 - a. その他の Foundation システムのマシンのインフラストラクチャがバージョン 6.0 SP1 の仕様を満たしていることを確認します。詳細については、[第 3 章「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
 - b. Image Service のコンポーネントをインストールし、ウェブ サーバーに導入します。詳細については、[「Plumtree Image Service のインストールと導入」](#)、4-21 ページを参照してください。
 - c. Plumtree Search コンポーネントをインストールします。詳細については、[「Plumtree Search のインストールと起動」](#)、4-23 ページを参照してください。
 - d. Collaboration や Analytics など、その他のポータル サーバーおよび管理ポータル サーバーのコンポーネントをインストールします。
 - e. Automation Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[「Plumtree Automation Service のインストールと起動」](#)、4-24 ページを参照してください。
 - f. WS Server コンポーネントをインストールします。
 - g. 必要に応じてその他の Foundation コンポーネントをインストールします。

4. Foundation の基本システムをテストし、ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認します。詳細については、[「インストールの確認」、4-29 ページ](#)を参照してください。
5. インストールのログ ファイルを参照し、エラーや警告が発生したかどうかを確認します。詳細については、[「ログの分析」、4-32 ページ](#)を参照してください。
6. 必要に応じてシステムをカスタマイズします。
7. カスタマイズが適用されていることを確認するために、カスタマイズ機能をテストします。

6

インストール後の手順

この章では、ポータル環境の導入を完了させるために実施するインストール後の作業と、各作業の説明が記載されている参考資料を示します。

作業	参考資料
1. インストールの確認とトラブルシューティングを行います。	「インストールの確認」、4-29 ページ
2. ウェブ アプリケーション サーバーが貴社のポータル環境用に適切に設定されていることを確認します。	付録 D「ウェブ アプリケーション サーバーの設定」
3. ポータル環境にほかのプラムツリー製品を含める場合は、それらをインストールし、テストします。	<i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Collaboration</i> <i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Publisher</i> <i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Studio</i>
4. 以前のバージョンからアップグレードした場合は、新しい機能と変更されている機能について習得します。	リリース ノート
5. ポータルをローカライズします。	<i>Plumtree Application Suite 導入ガイド</i> <i>Plumtree Foundation 管理者用ガイド</i>
6. ポータルのセキュリティ環境を設定します。	<i>Plumtree Application Suite 導入ガイド</i> <i>Plumtree Foundation 管理者用ガイド</i>
7. ユーザー、グループ、およびドキュメントを管理するためのポータル オブジェクトを作成します。	<i>Plumtree Foundation 管理者用ガイド</i>
8. 貴社のポータルで使用するドキュメント タイプをサポートするために、追加のポートレットやクロールウェブ サービスをインストールします。	Plumtree Product Center http://portal.plumtree.com アカウントをお持ちでない場合は、 support@plumtree.com にアカウント作成依頼メールを送信してください。
9. 閲覧ユーザーが、よりシンプルなポータル URL からポータルにアクセスできるようにするには、HTTP リダイレクト ページを作成します。	付録 F「別の URL からリダイレクトする方法」

作業	参考資料
<p>10.Plumtree Support Center で提供されているリソースについて習得し、活用します。ナレッジベースは、様々な場面で役立ちます。例えば、Lotus Notes ユーザーが貴社のポータル環境を利用する場合は、「Lotus Notes」を検索して、Lotus Notes のサポートに関するナレッジベースの記事を参照することができます。</p>	<p>Plumtree Support Center http://portal.plumtree.com アカウントをお持ちでない場合は、support@plumtree.com にアカウント作成依頼メールを送信してください。</p>

7

ポータル コンポーネントのアンインストール

ポータル ソフトウェアをアンインストールするには次を行います。

1. ポータルで **WebLogic** アプリケーション サーバーまたは **WebSphere** アプリケーション サーバーを使用している場合は、アプリケーション サーバーが稼動していることを確認してください。

ポータルで **Tomcat** アプリケーション サーバーを使用している場合は、プラムツリー アプリケーションが停止していることを確認します。

IIS は、稼動していても停止していてもアンインストールを実行できます。

2. **Windows** のコントロール パネルのプログラムの追加と削除ユーティリティでプラムツリー ポータルのアンインストール ウィザードを実行します。

A 導入コンポーネントの設定用ワークシート

この付録には、個々のポータル コンポーネントに必要なインストール情報を記入するためのワークシートが含まれています。これらのワークシートを印刷し、ポータル コンポーネントをインストールするために必要なホスト コンピュータやコンポーネントの設定情報を収集するために使用してください。

この付録には以下のワークシートが含まれています。

- [「Plumtree コンポーネントとホスト コンピュータの割り当て用ワークシート」](#)
- [「インストール ワークシート」、A-4 ページ](#)
- [「Plumtree 管理ポータル用のワークシート」、A-5 ページ](#)
- [「Plumtree Automation Service 用のワークシート」、A-6 ページ](#)
- [「Plumtree ドキュメント リポジトリ サービス用のワークシート」、A-7 ページ](#)
- [「.NET 版 Plumtree Image Service 用のワークシート」、A-8 ページ](#)
- [「.NET 版ポータル サーバー用のワークシート」、A-9 ページ](#)
- [「Plumtree Search 用のワークシート」、A-10 ページ](#)

Plumtree コンポーネントとホスト コンピュータの割り当て用ワークシート

[図 A-1](#) に、コンポーネントとホスト コンピュータの割り当てを定義するためのワークシートの例を示します。『*Plumtree Enterprise Web 導入ガイド*』のガイドラインに従って、[図 A-2](#) の空のシートに、貴社の導入環境の構成を記入してください。

図 A-1: プラムツリー コンポーネントとホスト コンピュータの割り当て用ワークシートの記入例

管理ポータル サーバー ポータル サーバー	Plumtree Search Plumtree Automation Service プラムツリードキュメント リポジトリ プラムツリー データベース	プラムツリー API サービス	Plumtree Image Service
enterprise.portal.com	back-end-services.portal.com	web-apps.portal.com	image-host

図 A-2: プラムツリー コンポーネントとホスト コンピュータの割り当て用ワークシート

インストール ワークシート

下記のワークシートは、Plumtree Foundation のインストーラを最初に実行した際に入力する必要のある値を示します。

プロパティ		値の例	使用する値
外部ポータル URL		http://enterprise.portal.com/portal	
Plumtree Automation Service のデフォルト コンピュータ		back-end-services.portal.com	
Plumtree Automation Service のポート番号		7777	
Plumtree Image Service の URL		http://image-host.portal.com/imageserver	
プラムツリー API サービスの URL		http://web-apps.portal.com	
Plumtree Search のホスト名		back-end-services.portal.com	
Plumtree Search のポート番号		15244	
プラムツリー ドキュメントリポジトリ サービスのホスト名		back-end-services.portal.com	
プラムツリー ドキュメントリポジトリ サービスのポート番号		8020	
プラムツリー コンテンツアップロード サービスのポート番号		11910	
ポータルデータベース SQL Server	ホスト名	back-end-services.portal.com	
	ポート番号	1433	
	データベース名	plumdb	
	ログイン名	plumdbuser	
	パスワード		
ポータルデータベース Oracle	ホスト名	back-end-services.portal.com	
	ポート番号	1521	
	サービス名	PLUM	
	スキーマのユーザー	plumtree	
	スキーマのパスワード		

プラムツリー管理ポータル用のワークシート

設定		値の例	使用する値
ホスト コンピュータ		enterprise	
インストール フォルダ		C:\Program Files\plumtree	
Plumtree Automation Service の ユーザー名		DOMAIN\automation_user	
Plumtree Automation Service の パスワード			
IIS ウェブサイト： デフォルト またはその他		デフォルト	
その他を選択 した場合	IIS ウェブ サイト 名	Plumtree Web Site	
	非セキュア ポート	8081	
	セキュア ポート	9091	
ポータル サーバー	ドメイン名	enterprise.portal.com	
	非セキュア ポート	8081	
	セキュア ポート	9091	

Plumtree Automation Service 用のワークシート

設定	値の例	使用する値
ホスト コンピュータ	back-end-services	
インストール フォルダ	C:\Program Files\plumtree	
Plumtree Automation Service のユーザー名	DOMAIN\automation_user	
Plumtree Automation Service のパスワード		

プラムツリー ドキュメント リポジトリ サービス用のワークシート

設定	値の例	使用する値
ホスト コンピュータ	back-end-services	
インストール フォルダ	C:¥Program Files¥plumtree	
プラムツリードキュメント リポジトリ サービスの 格納場所	C:¥Program Files¥plumtree¥ptdr¥documents	

.NET 版 Plumtree Image Service 用のワークシート

設定		値の例	使用する値
ホスト コンピュータ		web-apps	
インストール フォルダ		C:\Program Files\plumtree	
IIS ウェブサイト：デフォルト またはその他 その他を選択 した場合		デフォルト	
	IIS ウェブ サイト名	Plumtree Web Site	
	非セキュア ポート	8081	
	セキュア ポート	9091	

.NET 版ポータル サーバー用のワークシート

設定		値の例	使用する値
ホスト コンピュータ		enterprise	
インストール フォルダ		C:\Program Files\plumtree	
Plumtree Automation Service の ユーザー名		DOMAIN\automation_user	
Plumtree Automation Service の パスワード			
プラムツリー管理ポータルの URL		http://enterprise.portal.com	
IIS ウェブサイト： デフォルトまたは その他		デフォルト	
その他を選択した 場合	IIS ウェブ サイト名	Plumtree Web Site	
	非セキュア ポート	8081	
	セキュア ポート	9091	
ポータル サーバー	ドメイン名	enterprise.portal.com	
	非セキュア ポート	8081	
	セキュア ポート	9091	

Plumtree Search 用のワークシート

設定	値の例	使用する値
ホスト コンピュータ	back-end-services	
インストール フォルダ	C:\Program Files\plumtree	

B XML 設定ファイルのアップグレード

XML 設定ファイルのアップグレードでは、バージョン 6.0 以前のポータル環境に含まれているバージョン 5.x 以降の設定 XML ファイルとローカライゼーション XML ファイルを、新しいバージョン 6.0 の設定ファイルの階層構造に移行します。

新しいバージョンにおいて、ポータルの設定ファイルは、[PT_HOME]/ptportal/5.0/settings/config/ ではなく、トップレベル ディレクトリである PT_HOME の下に格納されています。複数の製品の間で、より容易に共通の設定を共有できるようにするために、このディレクトリに移動されました。例えば、共通の設定は、[PT_HOME]/settings/common の下に格納されています。また、ポータル関連の設定は、[PT_HOME]/settings/portal/ の下に格納されています。

結合 ファイル

以下の表に示すように、ご使用の既存のポータル バージョンのファイルと新しいバージョン 6.0 のファイルは、結合されます。新しい 6.0 のファイルの名前が、以前のバージョンのファイルの名前とは異なっている場合があります。例えば、多数のバージョン 5.x の XML ファイルは、バージョン 6.0 の **portalconfig.xml** という 1 つの XML ファイルに集約されます。

ファイルを結合する際に、一部の設定の値は以前のポータル バージョンから取得され、一部の値はバージョン 6.0 から取得されます。例えば、以下のファイルのほとんどの値は、ご使用の既存のポータル バージョンから取得されます。

- j_config/n_config.xml
- PTconfig.xml
- serverconfig.xml
- AutomationServer.xml
- NavigationSettings.xml
- sso.xml

以下のファイルの値には、新しいバージョン 6.0 の値が使用されます。

- timezones.xml
- JSComponentRegistry.xml
- AppWarmUpHelper.xml
- SearchLocales.xml

以下のファイルについては、バージョン 6.0 とご使用の既存のポータル バージョンのファイルが結合されます。

- SecureActivitySpaces.xml
- DisplayPlumtreeUtilities.xml



注意 : serverconfig.xml と AutomationServer.xml は、バージョン 5.0 のみに含まれています。その他の以前のポータル バージョン (5.0.x) では、これらの設定は Windows のレジストリに設定されています。

5.x のファイルと格納場所	6.x のファイルと格納場所
j_config.xml と n_config.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	portalconfig.xml(settings¥portal)
PTconfig.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
device.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
timezones.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
sso.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
SecureActivitySpaces.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
JSComponentRegistry.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
NavigationSettings.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
SearchLocales.xml	
AppWarmUpHelper (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
serverconfig.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	serverconfig.xml (settings¥common)
AutomationServer.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	
DisplayPlumtreeUtilities.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	DisplayPlumtreeUtilities.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥Utilities)
PageActions.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	PageActions.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥PEIs)

置き換えられるファイル

以下に示すファイルは、ポータルの以前のリリースから内容が更新されているため、新しいバージョン 6.0 のファイルに置き換えられます。これらのファイルはカスタマイズしないファイルなので、以前のインストール環境のこれらのファイルを削除しても問題はありません。

5.x のファイルと格納場所	6.x のファイルと格納場所
ActivitySpaces.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	ActivitySpaces.xml (settings¥portal)
VarPacks.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	VarPacks.xml (settings¥portal)
version.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	version.xml (settings¥portal)
ClassTypeDesc.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	ClassTypeDesc.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥ObjectDescriptions)
ProvInfo.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	ProvInfo.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥ObjectDescriptions)
DisplayPortalSettings.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	DisplayPortalSettings.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥Utilities)
DisplayServerSettings.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads)	DisplayServerSettings.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥Utilities)

新しいファイル

バージョン 6.0 では以下のファイルが追加され、以下に示す場所に格納されます。

5.x のファイルと格納場所	6.x のファイルと格納場所
なし	ConditionTypes.xml InterpreterFilters.xml OpenerPlugins.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥Plugins)
なし	DisplayDiagnosticPages.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥Utilities)
なし	OpenerActions.xml (settings¥portal¥dynamicloads¥PEIs)
なし	Tags.xml (settings¥portal)
なし	CustomTags.xml (settings¥portal)

再利用するファイル

以下のファイルには、貴社のポータル環境に固有のカスタマイズ設定が含まれています。したがって、ご使用の既存のバージョンからこれらのファイルをコピーする必要があります。

5.x のファイルと格納場所	6.x のファイルと格納場所
CustomActivitySpaces.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	CustomActivitySpaces.xml (settings¥portal)
CustomVarPacks.xml (ptportal¥5.0¥settings¥config)	CustomVarPacks.xml (settings¥portal)
すべての *Actions.xml ファイル (ptportal¥5.0¥settings¥config¥dynamicloads) PageActions.xml と OpenerActions.xml を除く	Same names (settings¥portal¥dynamicloads¥PEIs)

C

Windows ホストのメモリーの設定

Plumtree は、Windows 2003 の 4GT 機能を有効にすることをお勧めします。4GT 機能は、プロセスのアドレス スペースをデフォルトの 2 GB から 3 GB に増やします。

4GT 機能を有効にするには次を行います。

1. オペレーティング システムの **boot.ini** ファイルを開きます。

このファイルは、デフォルトで隠しファイルに設定されています。このファイルを表示するには、コマンド プロンプトで C ドライブのルート ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
attrib -s -r -h boot.ini
```

2. このファイルの [Operating Systems] セクションで、Windows 2003 オペレーティング システムの設定が記述されている行の終わりに /3gb を追加し、ファイルを保存します。

フラグをリセットするには、次のコマンドを入力します。

```
attrib +s +r +h boot.ini
```

3. コンピュータを再起動します。

.NET ポータルの場合は、以上で作業は終わりです。

4. Java ポータルの場合は、**editbin** ツールを使用して、アプリケーション サーバーで使用される **java.exe** に **/LARGEADDRESSAWARE** フラグを追加する必要があります。コマンド プロンプトで、**java.exe** が格納されているディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
editbin /LARGEADDRESSAWARE java.exe
```



注意 : **editbin** コマンドは、Windows のデフォルト パスに設定されています。この **java.exe** 実行ファイルを使用するほかのアプリケーションでは、3 GB のユーザー スペースが使用されます。Windows を 4GT モードで稼働していない場合は、このフラグを実行ファイルに設定しても効果はありません。この変更を元に戻す必要がある可能性があるため、**java.exe** を変更する前にバックアップを取っておく必要があります。また、追加のメモリー スペースに適合するように、**jvm** のパラメータのチューニングを行う必要があります。

D

ウェブ アプリケーション サーバーの設定

この付録では、ポータルに使用するウェブ アプリケーション サーバーの設定方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「IIS の設定」、D-1 ページ](#)
- [「WebLogic の設定」、D-4 ページ](#)
- [「WebSphere の設定」、D-6 ページ](#)
- [「Tomcat の設定」、D-7 ページ](#)

ウェブ アプリケーション サーバー上で実行されるコンポーネントは以下の通りです。

- プラムツリー管理ポータル
- ポータル サーバー
- Plumtree Image Service
- プラムツリー API サービス

IIS の設定

この節では、プラムツリー ポータルを使用するために IIS を設定する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「IIS の設定」](#)
- [「IIS のメモリー使用の設定」、D-3 ページ](#)

IIS の設定

この節では、プラムツリー ポータルを使用するために IIS を設定する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「プラムツリーのインストーラを実行する前の IIS の設定」](#)
- [「プラムツリーのインストーラを実行した後の IIS の設定」、D-3 ページ](#)

プラムツリーのインストーラを実行する前の IIS の設定

プラムツリー ソフトウェアをインストールする **前**に、以下の表に示すように、IIS を設定する必要があります。

OS	設定手順
Windows 2003	<p>1. IIS および必要な .NET ホットフィックスがインストールされていることを確認します。対応バージョンについては、「ソフトウェアの必要条件」、3-2 ページ を参照してください。</p> <p>Windows 2003 のホスト コンピュータで、IIS がまだインストールされていない場合は、Manage Your Server ユーティリティを使用して、アプリケーション サーバーを役割として追加します。このプロセスによって、IIS がインストールおよび設定され、ASP .NET が有効になります。</p>
Windows 2003	<p>2. WWW サービスが自動的に起動するように設定されていることを確認します。サービスを設定するには次を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [スタート 管理ツール サービス] をクリックします b. [World Wide Web Publishing Service] を右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。 c. サービスが自動的に起動するように設定します。
Windows 2003	<p>3. IIS 6.0 では、新しいアプリケーション プールの設定オプションが追加されており、デフォルトでこれらは有効に設定されますが、IIS 上で稼動するプラムツリー コンポーネント用にこれらが無効化する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. IIS マネージャを開きます。 b. [ローカル コンピュータ] と [アプリケーション プール] を展開表示します。 c. [DefaultAppPool] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。 d. [リサイクル] タブで、[ワーカー プロセスのリサイクル] のオプションが無効になっていることを確認します。 e. [パフォーマンス] タブで、[アイドル タイムアウト] のオプションが無効になっていることを確認します。 f. [OK] をクリックして変更を保存します。

プラムツリーのインストーラを実行した後の IIS の設定

プラムツリー ソフトウェアをインストールした **後**、以下の表に示すように、IIS が正しく設定されていることを確認する必要があります。

OS	設定手順
Windows 2003	<ol style="list-style-type: none"> 1. .pt 拡張子のマッピングがポータル ウェブ サイトに追加されており、正しく設定されていることを確認します。拡張子のマッピングを表示するには次を行います。 <ol style="list-style-type: none"> a. IIS マネージャで、[Web サイト] フォルダを展開し、ポータルの仮想ディレクトリを表示します。ポータルの仮想ディレクトリを右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。 b. [ホーム ディレクトリ] タブをクリックします。 c. [構成] ボタンをクリックします。 d. [アプリケーションのマッピング] タブをクリックします。 e. [拡張子] ボックスで、.pt 拡張子が設定されていることを確認します。次に [編集] をクリックし、.pt 拡張子が、.NET 1.1 aspnet_isapi.dll を参照しており、動詞 リストに、GET、HEAD、POST、OPTIONS、PROPFIND、PROPPATCH、MKCOL、LOCK、UNLOCK、PUT、DELETE、COPY、および MOVE が含まれていることを確認します。

IIS のメモリー使用の設定

512 MB または 1 GB 以下のメモリーが搭載されているコンピュータ上で IIS を実行する場合、IIS の **memoryLimit** の設定を最適化することをお勧めします。

memoryLimit は、ポータルのプロセスで使用できるメモリー容量の制限で、この容量に達すると、.NET によってプロセスが再起動されます。**memoryLimit** は、システム メモリーの全体に占める割合として表現します。ポータルのメモリー消費量が $(\text{memoryLimit} / 100) \times \text{SystemMemory}$ に到達するとプロセスは再起動されます。

ポータルで最適のパフォーマンスを得るには 800 MB ~ 1.3 GB の設定が必要ですが、400 MB 以下でも動作します。1 GB 以下のメモリーが搭載されているマシンの場合は、これを 80 ~ 90 の値に設定してください。1 GB を超えるメモリーが搭載されているマシンの場合は、 $(\text{memoryLimit} / 100) \times \text{SystemMemory}$ が 800 MB ~ 1.3 GB になるように設定してください。例えば、2 GB の RAM が搭載されているサーバーの場合、50 に設定することが適切です。

memoryLimit を設定するには、C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\version_number\CONFIG ディレクトリに格納されている **machine.config** ファイルを編集する必要があります。

ファイルの中で、**memoryLimit** 属性が最初に記述されている箇所は、コメントになっている大きなセクションの一部分です。2 度目に記述されている箇所はコメントになっていないので、ここで必要な値に設定してください。

WebLogic の設定

この節では、WebLogic がプラムツリー ポータル用に設定されていることを確認するためのインストール前およびインストール後の手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「プラムツリーのインストーラを実行する前の WebLogic の設定」](#)
- [「WebLogic へのプラムツリー コンポーネントの導入」、D-5 ページ](#)

プラムツリーのインストーラを実行する前の WebLogic の設定

この節では、プラムツリー アプリケーションを導入するために WebLogic アプリケーション サーバーを設定する方法について説明します。

プラムツリーのインストーラを実行した際に、プラムツリー アプリケーションが自動的に WebLogic アプリケーション サーバーに導入されるようにするには、以下の手順に正しく従ってください。自動導入が失敗した場合は、[「WebLogic へのプラムツリー コンポーネントの導入」、D-5 ページ](#)の手順に従って、プラムツリー アプリケーションをアプリケーション サーバーに導入してください。

プラムツリー ソフトウェアをインストールする **前**に、WebLogic をインストールし、以下の要素を設定してください。

1. ご使用のアプリケーション サーバーがこのプラムツリー リリースをサポートしていることを確認します。対応バージョンに関する情報については、[「ソフトウェアの必要条件」、2-2 ページ](#)を参照してください。
2. 新しい WebLogic サーバーのインスタンスが、プロダクション モードで、Windows のサービスとして稼動するように設定します。
 - WebLogic サーバーのインスタンスをインストールする際に、サーバーが、プロダクション モードで、Windows のサービスとして実行されるように設定することができます。
 - それ以外の場合に WebLogic サーバーのインスタンスをプロダクション モードで、Windows のサービスとして稼動するように設定する方法については、WebLogic の資料を参照してください。
3. JVM パラメータのチューニングを行います。例えば、**startWebLogic.cmd** と **setEnv.cmd** ファイルの中の値を編集して Java ヒープ サイズを調節します。パフォーマンス チューニングを行う際の参考として、プラムツリーは以下の値を提案します。
 - WL_HOME=<weblogic81 ディレクトリへの絶対パス>
例: "/opt/bea/weblogic81"
 - JAVA_VENDOR="sun"
 - PRODUCTION_MODE="true"
 - JAVA_HOME=<Sun jvm への絶対パス>
例: "/opt/bea/jdk142_05"
 - SERVER_NAME=<インストール時に選択した WebLogic サーバーの名前> 例えば、
"myserver"
 - JAVA_VM= "-server"

- MEM_ARGS= -Xms:< 最小ヒープ スペース > -Xmx:< 最大ヒープ スペース > -XX:NewSize=< 新規生成のサイズ > -XX:MaxNewSize=< 新規生成の最大サイズ > <SurvivorRatio、PermSize、ParallelGC オプション >

例: -Xms256m -Xmx256m -XX:NewSize=64M -XX:MaxNewSize=64M -XX:SurvivorRatio=8 -XX:MaxPermSize=64m -XX:+UseParallelGC

JVM パラメータのチューニングに関する詳細については、WebLogic の資料を参照してください。

プラムツリーのインストーラを実行した後の WebLogic の設定

プラムツリーのインストーラを実行した後、追加手順を実行して WebLogic を設定する必要があります。以下のファイルは、<PORTAL_HOME>%lib%java ディレクトリに格納されています。

- xalan.jar
- xml-apis.jar
- xerces144.jar

<jre_home>%lib%endorsed というディレクトリを作成して、上記の 3 つのファイルをそのディレクトリにコピーし、WebLogic 8.1. で使用される、JDK 1.4.2 に付属の xalan-j のバージョン (xalan-j v.2.4.1) を上書きします。プラムツリー ポータルに必要なバージョンは、Xalan-J v.2.5.0 です。

上記を行った後、次のコマンドを入力して正しい xalan-j のバージョンがインストールされていることを確認してください。

```
c:%bea%jdk142_05%bin%java org.apache.xalan.xslt.EnvironmentCheck
```

環境設定の一覧の中に xalan-j 2.5.0 が含まれているはずです。

WebLogic へのプラムツリー コンポーネントの導入

インストーラによって、プラムツリー コンポーネントがアプリケーション サーバーに導入されなかった場合、コンポーネントを導入するには以下の手順に従ってください。

- WebLogic アプリケーション サーバーが稼動していることを確認します。
- WebLogic サーバーのコンソールにログインします。通常、コンソールは次の場所からアクセスできます。
`http://<host-fqdn>:port/console`
- プラムツリー アプリケーションのドメイン ターゲットの下で、**[デプロイメント | Web アプリケーション モジュール]** をクリックします。
- [Select Archive]** ページで、ポータルの .war ファイルを参照して選択します。例えば、**C:%Program Files%plumtree%ptportal%6.0%webapp%portal.war** を選択します。次に、**[モジュールの割り当て]** をクリックします。
- 設定の詳細を確認し、**[デプロイ]** をクリックします。
- アプリケーション サーバーのインスタンスを停止し、再起動します。

WebSphere の設定

この節では、プラムツリー アプリケーションを導入するために WebSphere アプリケーション サーバーを設定する方法について説明します。また、インストーラによって自動的にアプリケーションが導入されなかった場合に、プラムツリー アプリケーションを WebSphere アプリケーション サーバーに導入するための手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「プラムツリーのインストーラを実行する前の WebSphere の設定」](#)
- [「WebSphere へのプラムツリー コンポーネントの導入」](#)

プラムツリーのインストーラを実行する前の WebSphere の設定

プラムツリーのインストーラを実行した際に、プラムツリー アプリケーションが自動的に WebSphere アプリケーション サーバーに導入されるようにするには、以下の手順に正しく従ってください。自動導入が失敗した場合は、[「WebSphere へのプラムツリー コンポーネントの導入」](#)、[D-7 ページ](#) の手順に従って、プラムツリー アプリケーションをアプリケーション サーバーに導入してください。

プラムツリー ソフトウェアをインストールする **前**に、WebSphere をインストールし、以下の要素を設定してください。

1. ご使用のアプリケーション サーバーがこのプラムツリー リリースをサポートしていることを確認します。対応バージョンに関する情報については、[「ソフトウェアの必要条件」](#)、[2-2 ページ](#) を参照してください。
2. Windows のサービスとして実行される WebSphere サーバーのインスタンスを設定します。
 - WebSphere サーバーのインスタンスをインストールする際に、サーバーが Windows のサービスとして実行されるように設定することができます。
 - それ以外の場合に WebSphere サーバーのインスタンスを Windows サービスとして設定する方法については、WebSphere の資料を参照してください。
3. プラムツリー アプリケーションのパフォーマンスを最適化するために WebSphere の JVM 設定を設定し、アクセント記号付き文字をサポートするためのカスタム設定を設定してください。以下の手順に従ってください。
 - a. WebSphere Administrative Console を開きます。
 - b. 拡張 JVM 設定の設定ページを表示するには、**[Servers | Application Servers | <server_name> | Process Definition | Java Virtual Machine]** をクリックします。

 <server_name> は、貴社の導入環境のアプリケーション サーバー インスタンスの名前です。

 初期 Java ヒープ サイズ を 700 MB に設定します（これは推奨値ですので、必要に応じて調節してください）。

 最大 Java ヒープ サイズ を 1500 MB に設定します（これは推奨値ですので、必要に応じて調節してください）。
 - c. **[Apply]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。

JVM パラメータのチューニングに関する詳細については、WebSphere の資料を参照してください。

WebSphere へのプラムツリー コンポーネントの導入

インストーラによって、プラムツリー コンポーネントがアプリケーション サーバーに導入されなかった場合、コンポーネントを導入するには以下の手順に従ってください。

WebSphere にアプリケーションを導入するには次を行います。

1. アプリケーション サーバーを設定するために、まず **[スタート | プログラム | IBM Web Sphere | Application Server 5.1 | Stop the Server]** をクリックしてサーバーを停止します。
2. **[スタート | プログラム | IBM WebSphere | Application Server 5.1 | Administrative Console]** をクリックして、WebSphere アプリケーション サーバーの管理コンソールを開きます。
3. ナビゲーション ツリーで、Applications ノードを展開し、**[Install New Application]** をクリックします。
4. ウィザードの最初のページで、**[Browse]** をクリックし、**<PTHOME>%plumtree%portal%6.0%webapp%** にインストールされているプラムツリーの **.ear** パッケージを参照して選択します。
5. **[Next]** をクリックします。
6. それ以降のウィザードの各ページでは、デフォルトをそのまま使用し、**[Next]** をクリックします。
7. 最後のウィザード ページで、**[Finish]** をクリックします。
8. ウェブ アプリケーション サーバーを再起動します。

Tomcat の設定

この節では、プラムツリー アプリケーションを導入するために Tomcat アプリケーション サーバーを設定する方法について説明します。また、インストーラによって自動的にアプリケーションが導入されなかった場合に、プラムツリー アプリケーションを Tomcat アプリケーション サーバーに導入するための手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「プラムツリーのインストーラを実行する前の Tomcat の設定」](#)
- [「Tomcat へのプラムツリー コンポーネントの導入」](#)

プラムツリーのインストーラを実行する前の Tomcat の設定

この節では、プラムツリー アプリケーションを導入するために Tomcat アプリケーション サーバーを設定する方法について説明します。

プラムツリー ソフトウェアをインストールする **前**に、Tomcat をインストールし、以下の要素を設定してください。

1. ご使用のアプリケーション サーバーがこのプラムツリー リリースをサポートしていることを確認します。対応バージョンに関する情報については、[「ソフトウェアの必要条件」](#)、[2-2 ページ](#)を参照してください。

2. JVM 設定のチューニングを行います。例えば、Java ヒープ サイズを調節することをお勧めします。Tomcat の場合、Java ヒープ サイズは、JAVA_OPTS というシステム環境変数を通して設定します。システム環境変数を作成するには次を行います。
 - a. [**スタート | 設定 | コントロール パネル | システム**] を選択します。
 - b. [**詳細設定**] タブをクリックします。
 - c. [**システムのプロパティ**] ダイアログで、[**環境変数**] をクリックします。
 - d. [**システム環境変数**] セクションで、[**新規**] をクリックします。
 - e. 新しい変数の名前と変数値を入力します。
 - f. [**OK**] をクリックします。

ポータル サーバー用に、JAVA_OPTS を次の通りに設定します。

```
JAVA_OPTS=-Xms256m -Xmx256m -XX:NewSize=64M -XX:MaxNewSize=64M -XX:SurvivorRatio=8
```

Tomcat の **startup.bat** ファイル (Tomcat のコンソール用のファイル)、または **installsvc.bat** ファイル (Tomcat のサービス用のファイル) で、JAVA_OPTS を設定することもできます。

大規模なシステムでは、**Xmx** の値を若干増やしてください。一方、開発者のテスト環境といった非常に小さなシステムでは、より小さな **Xms** と **XX:NewSize** を設定してください。

-Xmx を 400 を超える値に設定しないことをお勧めします。

ユーザー数が多い導入環境では、Tomcat 以外のサポート対象アプリケーション サーバーを使用することをお勧めします。WebLogic や WebSphere とは異なって、Tomcat には、同時ユーザーに対応するための高い拡張性はありません。また CPU に大量の負荷がかかった場合、ほかのサーバーより効率が低下します。

Tomcat へのプラムツリー コンポーネントの導入

インストーラによって、プラムツリー コンポーネントがアプリケーション サーバーに導入されなかった場合、コンポーネントを導入するには以下の手順に従ってください。

1. 次の Tomcat のフォルダを選択します。

```
Tomcat_installation_directory\conf\Catalina\localhost
```

2. このフォルダで、以下の内容を記述した **portal.xml** という名前の XML ファイルを作成します。

```
<Context path="/portal"
docBase="portal_install_folder\ptportal\6.0\webapp\portal.war"
unpackWAR="false"> </Context>
```

3. 作成した XML ファイルを保存します。
4. Tomcat アプリケーション サーバーを再起動します。

E

Oracle データベース内にテーブルスペースとスキーマを作成する方法

プラムツリーは、システムのパフォーマンスとメンテナンスをより厳密に監視および制御できるようにするために、プラムツリー ポータル専用のデータベースを作成することをお勧めします。しかし、プラムツリー オブジェクトを既存のデータベースに組み込む必要がある場合は、プラムツリー オブジェクト用のテーブルスペースとスキーマを作成することができます。これには、[「Windows における Oracle データベースの作成と設定」、4-11 ページ](#) に記載されている **crdb1_oracle_nt.sql** と

crdb2_oracle_nt.sql のスクリプトを使用してデータベースを作成する代わりに、この付録の手順に従ってテーブルスペースとスキーマを作成してください。

Windows 上の既存の Oracle データベース内にプラムツリー ポータル用のテーブルスペースとスキーマを作成するには次を行います。

1. ORACLE_BASE 環境変数を設定します。例えば、次のように設定できます。

```
set ORACLE_BASE = c:\oracle
```

2. スクリプトが格納されているフォルダで、sysdba 権限を持つユーザーとして sqlplus を起動し、次のコマンドを使用して create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql スクリプトを実行します。

```
sqlplus sys/password  
(プロンプトが SQL> に変わります)  
SQL> @create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql
```

3. ポータルで使用するスキーマを作成します。スクリプトを実行すると、ユーザー名とパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。

```
SQL> @create_plumtree_user_oracle.sql  
SQL> exit
```


F

別の URL からリダイレクトする方法

ブラウザからポータルに簡単にアクセスできるようにするための、よりシンプルな URL を作成するには、ポータルを発行する URL に HTML リダイレクト ページを設定します。これには、アプリケーション サーバーの仮想ディレクトリのルート フォルダ内に、**index.html** (Java) または **default.htm** (.NET) というファイルを作成します。HTML リダイレクト ページには次のような内容を記述します。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 3.2//EN">
<html>
<head>
<meta HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="0; url=/portal/server.pt?">
</head>
</html>
```

別の URL からリダイレクトする方法 -

索引

A

- API サービス
インストール 4-25
- Automation Service
インストール 4-24

D

- Database Upgrade Tool 5-1
- Diagnostic Tool 4-27

F

- Foundation のコア コンポーネント
 - API サービス 2-2
 - Automation Service 2-2
 - Image Service 2-1
 - Search Service 2-2
 - 管理ポータル 2-1
 - コンテンツ アップロード サービス 2-2
 - ドキュメント リポジトリ サービス 2-2
 - ポータル サーバー 2-1

I

- IIS
 - メモリー使用の設定 D-1
- Image Service
 - 手動導入 4-23
 - 導入とインストール 4-21

L

- Logging Spy (PTSpy) 4-34
- Logging Utilities
設定 4-33

M

- Microsoft SQL Server データベース : SQL Server データベースを参照

O

- Oracle データベース
 - ポータルのための設定 4-11
- Oracle のデータベース スクリプト
 - crdb1_oracle_nt.sql 4-12
 - crdb2_oracle_nt.sql 4-13
 - create_plumtree_tablespace_oracle_nt.sql 4-14
 - create_plumtree_user_oracle.sql 4-14
 - CreateService.bat 4-13
 - create_spfile_oracle_nt.sql 4-15
 - create_tables_oracle.sql 4-15
 - initPLUM.ora 4-16
 - init_plumtree_db_oracle.sql 4-16
 - load_seed_info_oracle.sql 4-16
 - postinst_oracle.sql 4-17
 - RegisterSIDPLUM.reg 4-17
 - run_script_proc_oracle.sql 4-17
 - stored_procs_oracle.sql 4-17
 - カスタマイズ 4-12

P

- Plumtree Foundation のコンポーネントの導入 3-1

S

- Search Service
インストール 4-23

T

- Tomcat
 - 手動導入 D-8
 - 設定 D-7

W

- WebLogic
 - 手動導入 D-5
 - 設定 D-4
- WebSphere
 - 手動導入 D-7
 - 設定 D-6

X

- xml ファイル B-2, B-3, B-4

あ

- アンインストール
ポータル 7-1

い

- インストーラのページ 4-2
 - Apache Deployment Information 4-4
 - API Service - Application Port 4-5
 - API Service URL 4-6
 - Auto-Deployment to a Java Web Application Server 4-3
 - Automation Service Port 4-6
 - Choose Install Set 4-3
 - Content Upload Service - Application Port 4-5
 - Default Automation Service Computer 4-6
 - Document Repository Service - Application Port 4-6
 - Document Repository Service Host and Port 4-6
 - External Portal URL 4-6
 - Fully Qualified Domain Name and Ports 4-5
 - Image Service Compression on IIS 4-4
 - Image Service URL 4-6
 - Image Service: Auto-Deployment to Apache 4-4
 - Installation Folder 4-2
 - License Agreement 4-2
 - Portal Database 4-6
 - Portal Database Connection Information 4-6
 - Search Collection Treatment 4-6
 - Search Host Name and Port 4-6
 - Select IIS Web Site 4-4
 - Specify IIS Web Site Information 4-5
 - Tomcat Deployment Information 4-8
 - Upgrade Information 4-2
 - Upgrade Option 4-3
 - Web Application Environment 4-3

- WebLogic 4-7
- WebSphere 4-8
- インストール
 - プラムツリー コンポーネント 4-1
- インストールの確認 4-29
- う
- ウェブ アプリケーション サーバー
 - 設定 D-1
 - ポータルに使用するための設定 D-1
- か
- 管理ポータル 4-8
- こ
- コンテンツ アップロード サービス
 - インストール 4-26
 - トラブルシューティング 4-27
- さ
- サーバー コンポーネント 2-3
 - Collaboration 2-3
 - Publisher 2-3
 - Studio 2-3
- せ
- 接続
 - テスト 4-29
- そ
- ソフトウェアの必要条件 3-2
 - MDAC 3-2
 - ウェブ アプリケーション サーバー 3-2
 - オペレーティング システム 3-2
 - データベース サーバー 3-2
 - ブラウザ 3-2
- て
- データベースのアップグレード 5-1
 - .NET 版のツール 5-3
 - Java 版のツール 5-4
 - システム固有のパラメータの更新 5-8
 - ストアド プロシージャの読み込み 5-7
 - データのエクスポートと再インポート 5-6
- デフォルトの SID 4-18
 - 変更 4-18
- と
- ドキュメント リポジトリ サービス
 - インストール 4-24
 - トラブルシューティング 4-25
- に
- 認証コンポーネント 2-3
 - Plumtree Identity Service - Active Directory 2-3
 - Plumtree Identity Service - LDAP 2-3
- は
- ハードウェアの必要条件 3-2

- ひ
- 必要な管理ユーザー権限 3-3
 - 専用の Windows ユーザー アカウント 3-3
 - ローカル ホストの管理者アカウント 3-3
- ふ
- プラムツリー データベース 4-9
- プラムツリー統合製品のコンポーネント 2-3
- プラムツリー ポータル コンポーネント
 - インストール 4-27
- ほ
- ポータル サービス
 - 起動 4-28
- ポータル、Plumtree Foundation
 - Oracle データベースの設定 4-11
 - アンインストール 7-1
 - ログ ファイル 4-32
- め
- メモリーの設定
 - Windows ホスト C-1
- ろ
- ログ
 - 分析 4-32
- ログ ファイル 4-32